

奈良県感染症発生動向調査事業報告

令和6年 内科・小児科感染症の概要

1. 令和6年の流行状況(定点当り)

令和6年(1月～12月の合計)の定点当たり報告数[報告実数]は、多い順から①インフルエンザ(372.09)[20,247人]、②新型コロナウイルス感染症(317.12)[17,344人]、③感染性胃腸炎(228.51)[7,697人]、④手足口病(202.69)[6,864人]、⑤A群溶連菌咽頭炎(112.66)[3,805人]、⑥RSウイルス感染症(59.26)[2,001人]、⑦咽頭結膜熱(27.11)[914人]、⑧突発性発しん(13.32)[449人]、⑨ヘルパンギーナ(9.93)[336人]、⑩水痘(6.00)[202人]、⑪伝染性紅斑(3.07)[102人]、⑫流行性耳下腺炎(0.95)[32人]であった。

2. 地区別(保健所別)の報告数(定点当り)の状況(県平均との比較)

地区別(保健所別)で県平均以上の報告数があった疾病は、奈良市保健所(1疾患)：水痘、郡山保健所(4疾患)：水痘、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、中和保健所(東)(4疾患)：インフルエンザ、RSウイルス感染症、手足口病、突発性発しん、中和保健所(西)(10疾患)：12疾患のうち伝染性紅斑と流行性耳下腺炎を除く10疾患、吉野保健所(4疾患)：新型コロナウイルス感染症、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎であった。

3. 月別の発生状況(定点当り)

各疾病の月別流行状況を見てみると、1月が最多であった疾患は咽頭結膜熱 4.85(165人)の1疾患であった。以下、2月(2疾患)：感染性胃腸炎 28.43(955人)、水痘 0.75(25人)、4月(1疾患)：RSウイルス感染症 18.50(629人)、5月(2疾患)：A群溶連菌咽頭炎 17.31(587人)、流行性耳下腺炎 0.27(9人)、6月(1疾患)：突発性発しん 1.62(55人)、7月(3疾患)：新型コロナウイルス感染症 58.58(3,222人)、手足口病 40.50(1,377人)、ヘルパンギーナ 2.74(93人)、12月(2疾患)：インフルエンザ 140.99(7,605人)、伝染性紅斑 1.50(49人)であった。なお、3月、8月、9月、10月、11月が最多であった疾患はなかった。

4. 世代別(1歳平均)での報告数の状況

乳児期[0歳]が最多であった疾患は、新型コロナウイルス感染症(420.0人)、RSウイルス感染症(469.0人)、突発性発しん(94.0人)の3疾患であった。幼児期[1～5歳]が最多であった疾患は、咽頭結膜熱(137.0人)、A群溶連菌咽頭炎(348.8人)、感染性胃腸炎(845.2人)、手足口病(1,108.6人)、伝染性紅斑(10.6人)、ヘルパンギーナ(52.2人)、流行性耳下腺炎(2.8人)の7疾患であった。学童期[6～14歳]が最多であった疾患は、インフルエンザ(1,011.4人)、水痘(14.1人)の2疾患であった。思春期[15～19歳]、成人期[20～59歳]、老齢期[60歳～]が最多の疾患はなかった。

柳生 善彦 記

インフルエンザ／COVID-19 定点分
(小児科定点・内科定点)

1.インフルエンザ

図 1-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

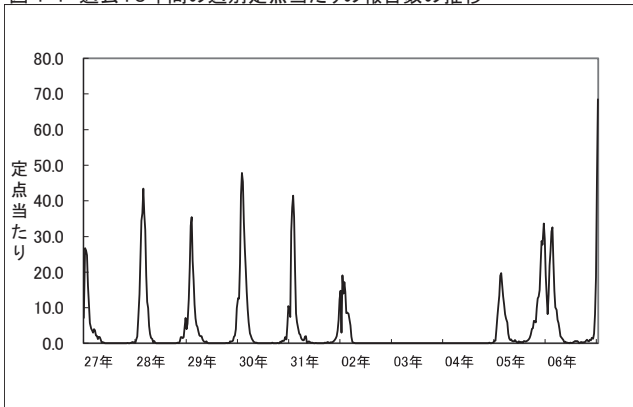


図 1-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

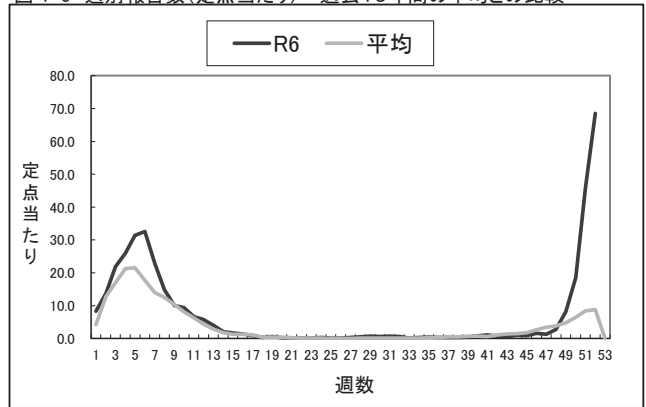


図 1-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

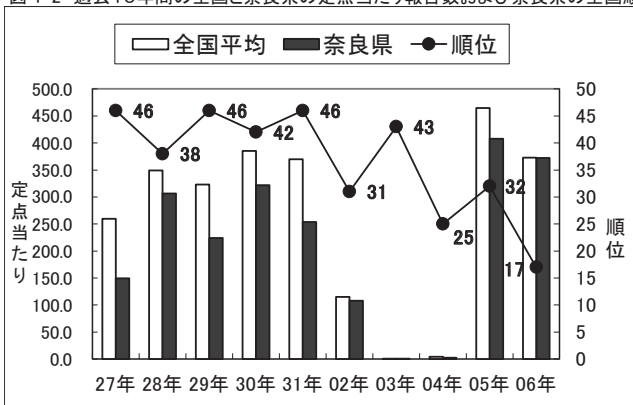


図 1-6 年齢別報告数(実数)

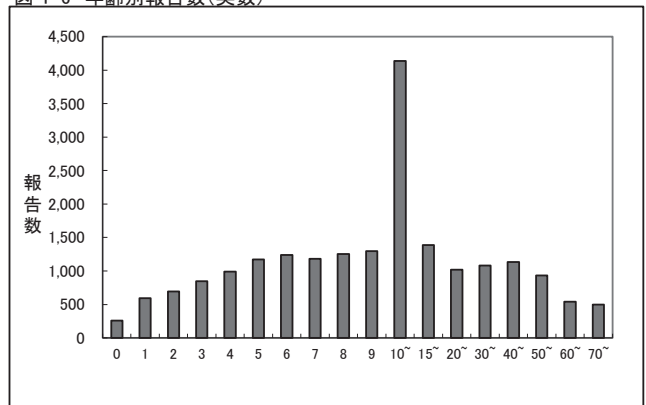
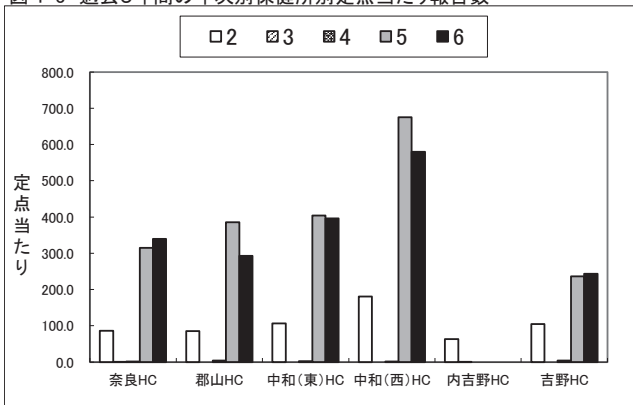
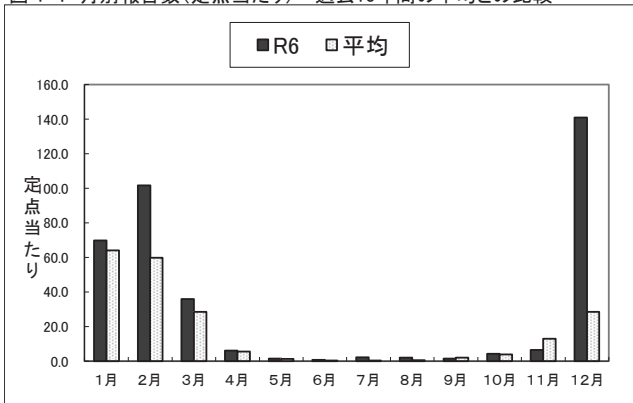


図 1-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 1-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

・令和5年の年末から先行的に流行したA型(H1N1亜型、H3N2亜型)に入れ替わり、令和6年の1～2月は、B型(ビクトリア系統)が続くという流行状況がみられた。

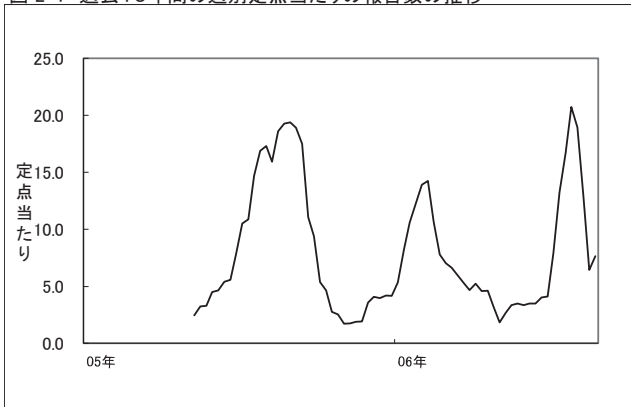
・また、令和6年12月から年末年始にかけて、A型(H1N1 pdm09亜型)を主体として、全国的に医療状況を逼迫させるレベルの急峻な流行ピークがみられた。

・年齢属性では小児患者数が多く、特に10歳代前半くらいまでが好発年齢であり、保健所地区別では例年と同様に中和(西)保健所管内の定点報告数が多かった。

(鈴木 滋生 記)

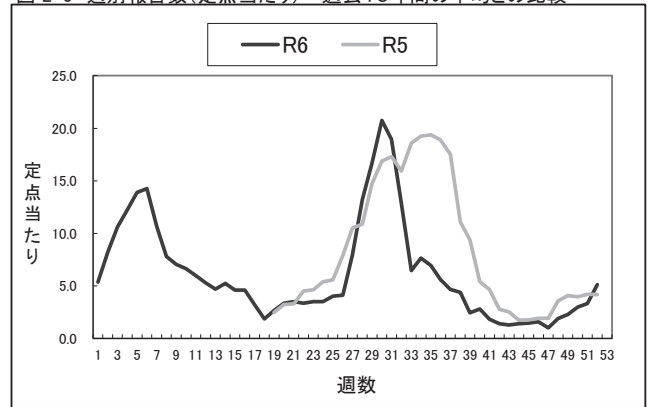
2.新型コロナウイルス感染症

図 2-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移



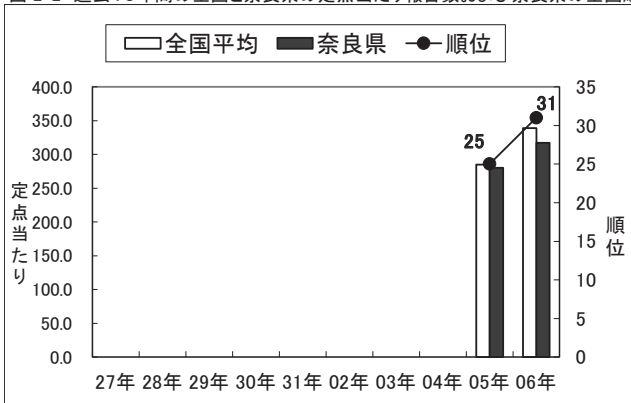
※R5年第18週以前のデータなし。

図 2-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



※R5年第18週以前のデータなし。

図 2-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位



※R5年は、第19～52週の合計になります。
 ※R5年第18週以前のデータなし。

図 2-6 年齢別報告数(実数)

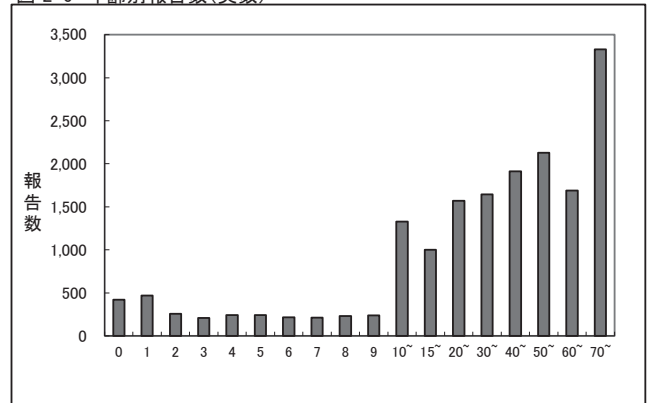
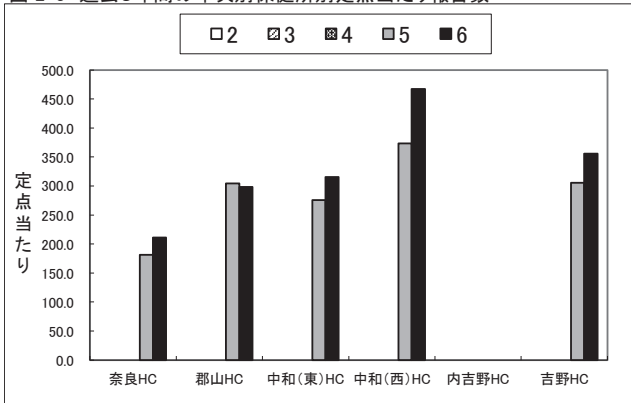
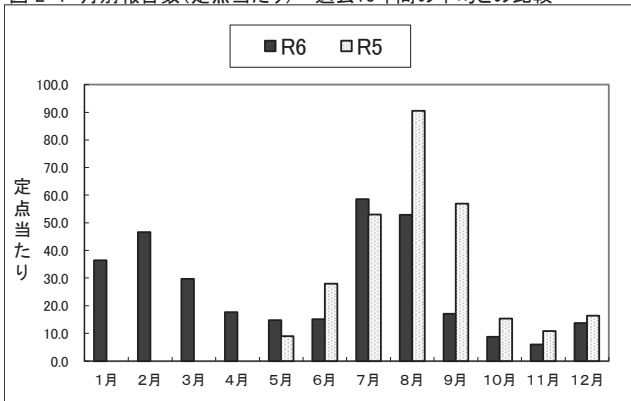


図 2-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。
 ※R5年第18週以前のデータなし。R5年は、第19～52週の合計になります。

図 2-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



※R5年4月以前のデータなし。

コメント

・令和6年の奈良県における新型コロナ感染状況は、2月および7～8月に二峰性流行がみられた。後者の流行ピーク時の定点報告数は前年と同程度であった。

・年齢別では、階級幅を揃えると小児がやや多い印象であるが、中高年での報告数も一定数みとめられ、全年齢層で平準的な感染報告数がある。

・保健所地区別では、前年と同様に中和保健所(西)管内が相対的に多かった。

(鈴木 滋生 記)

小兒科定点分

3.RSウイルス感染症

図 3-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

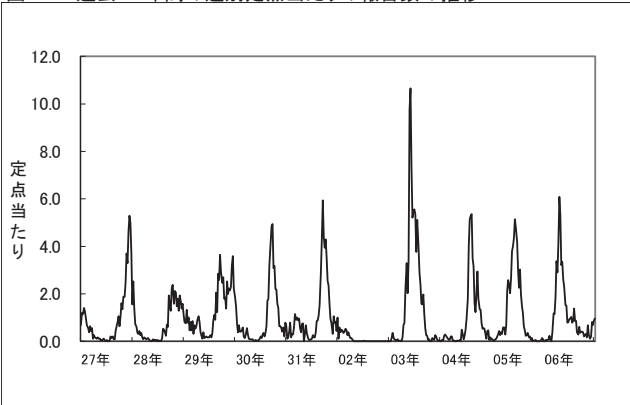


図 3-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

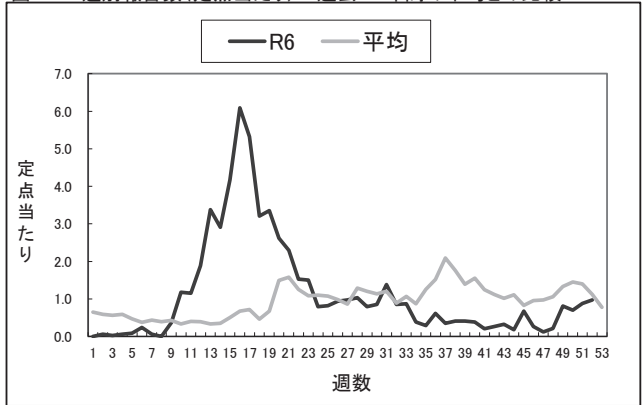


図 3-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

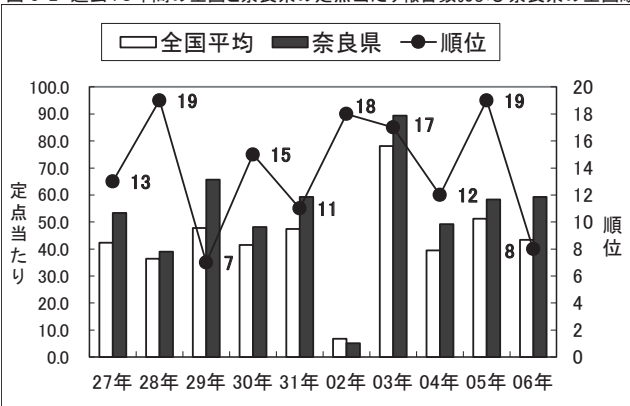


図 3-6 年齢別報告数(実数)

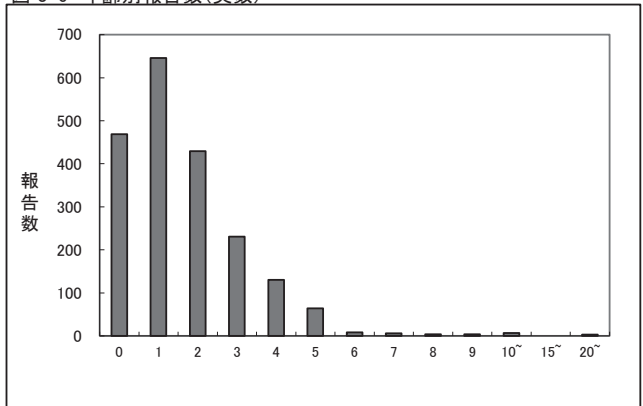
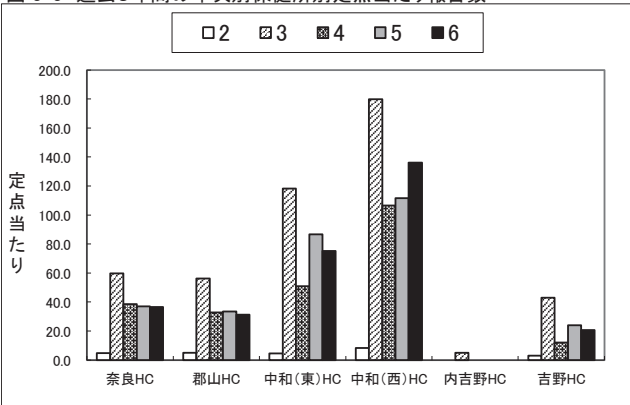
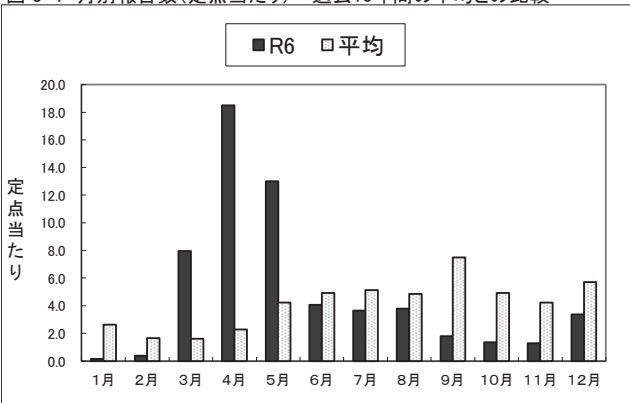


図 3-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 3-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

- ・令和6年におけるRSウイルス感染症の年間報告数は、例年と同様の水準であった。
- ・時期については、令和6年では好発とされる冬期よりも春期(ピークは4月)に流行がみられた。
- ・年齢別では、例年と同様に0～2歳の乳幼児感染報告数が多かった。
- ・保健所地区別でも例年と同様に中和保健所(西)管内での報告数が多かった。

(鈴木 滋生 記)

4.咽頭結膜熱

図 4-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

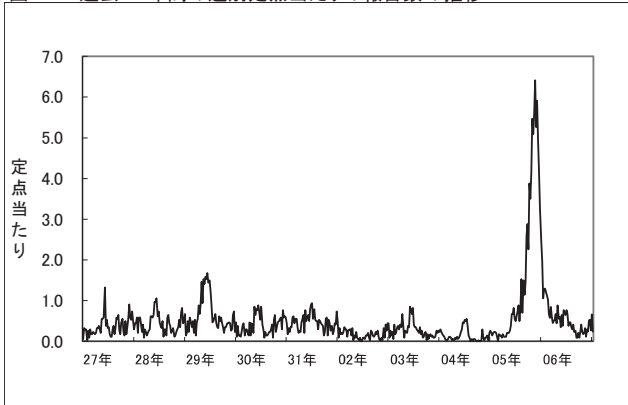


図 4-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

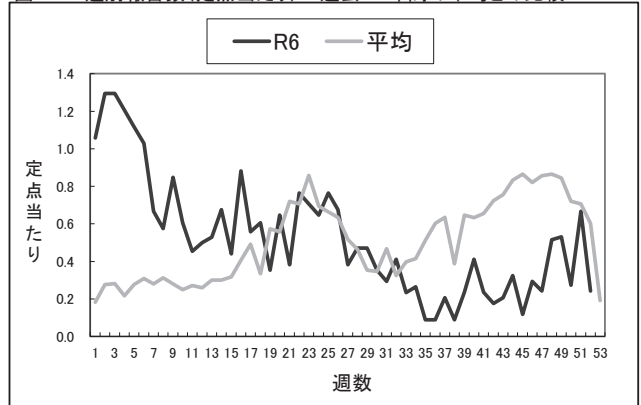


図 4-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

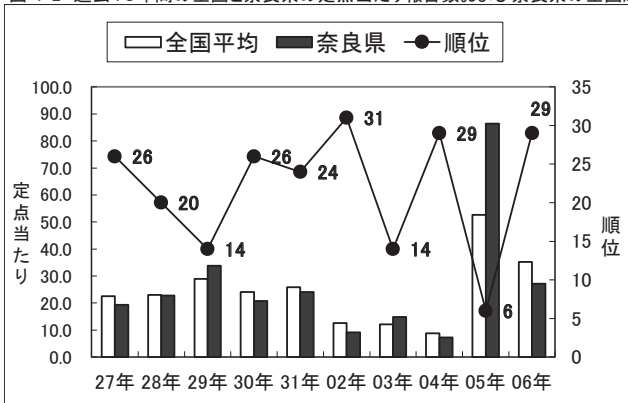


図 4-6 年齢別報告数(実数)

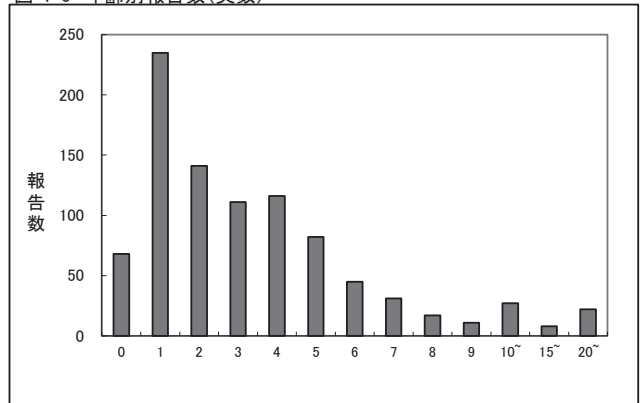
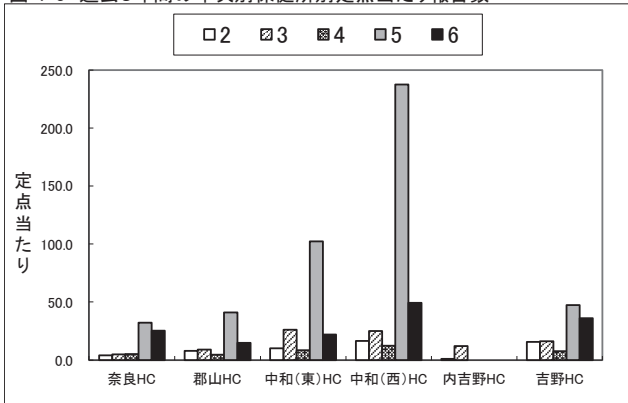
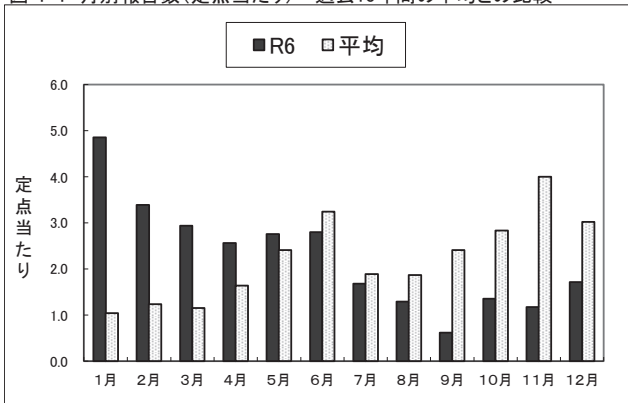


図 4-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 4-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

・咽頭結膜熱の流行は、令和5年末の大流行の余波を受けて、令和6年1月をはじめ、前半期は総じて過去10年間の平均報告数を上回っていた。その後、次第に収束し、後半期は平均報告数を下回った。

・年齢別では好発年齢とされる乳幼児で報告数が多かった。

・保健所地区別では、前年ほど著明ではないが、相対的には中和保健所(西)管内での報告数が多かった。

(鈴木 滋生 記)

5.A群溶連菌咽頭炎

図 5-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

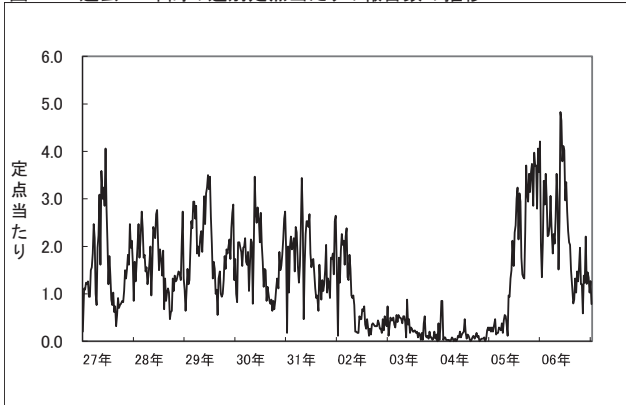


図 5-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

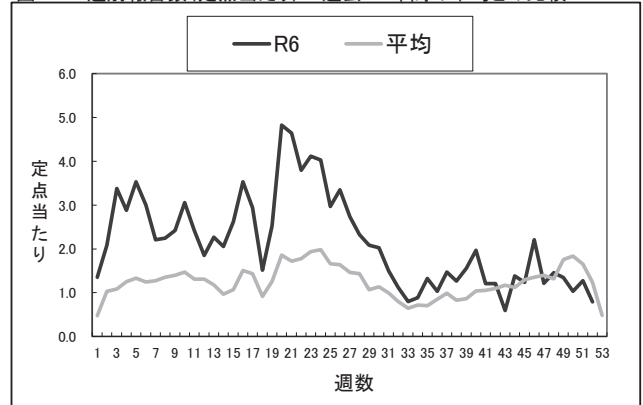


図 5-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

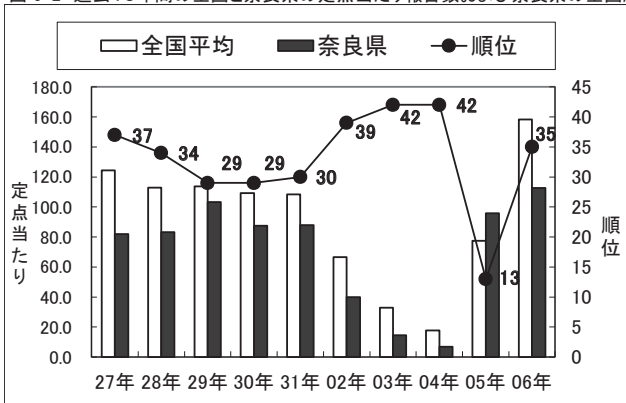


図 5-6 年齢別報告数(実数)

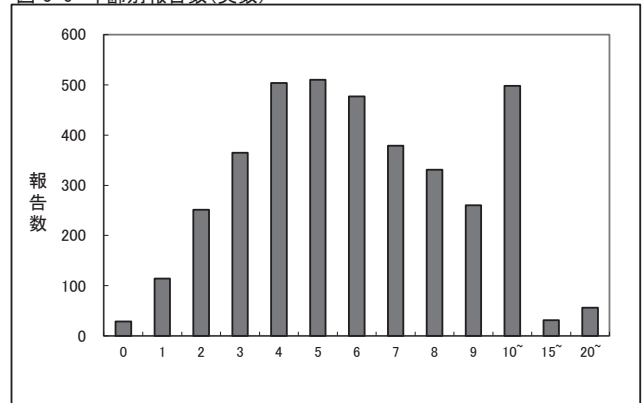
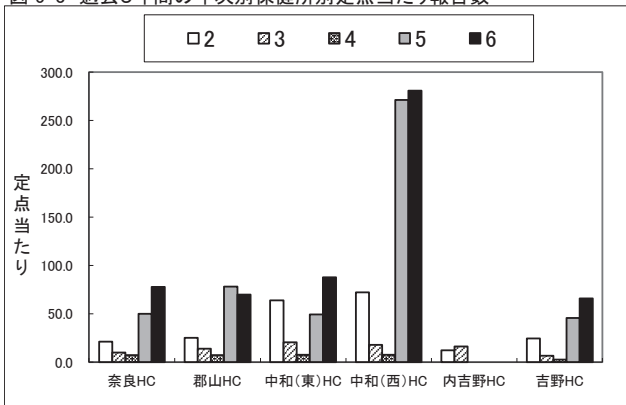
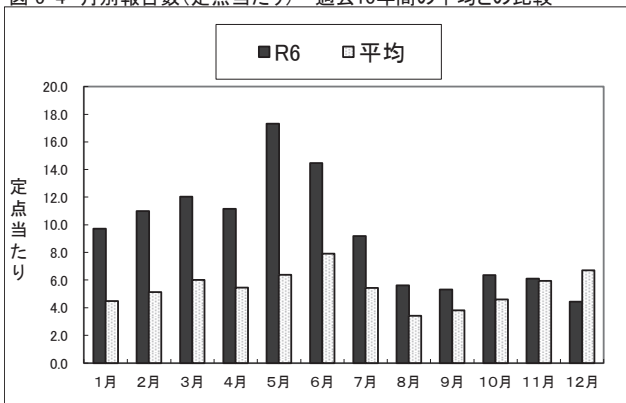


図 5-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 5-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

- ・令和6年における全報告数は3805例、定点あたり112.66で、前年の約1.1倍、過去10年間で最多だった。
- ・過去10年間の平均は、全国では前年と比べ約2倍の増加を示し、奈良県は全国(定点あたり158.27)より少なく、全国順位もコロナウイルス流行前とほぼ同様の35位にとどまっている。(昨年13位)

- ・保健所定点あたりの報告数は、中和(西)で過去5年間で最大となり、次いで中和(東)、奈良市、郡山、吉野で、郡山だけ昨年を下回った。

- ・月別定点あたり報告数は、1月から過去10年の平均のほぼ2倍の報告数を示し、5月にピークとなり、7月から減少傾向だが12月以外は過去10年の平均より多い報告数となっている。
- ・週別定点あたり報告数は、年初より過去10年の平均より2倍以上の報告数を示す週も多く、21週のピーク時は過去10年の平均の3倍以上となり、その後減少するが、42週までは過去10年の平均報告数を上回っている。
- 過去10年の平均が示す冬のピークに向けての増加は見られない。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行し、社会経済活動の通常化により感染拡大した昨年以上の報告数の増加が見られていない。

- ・年齢別の実報告数では5歳をピーク(510例)に分布、例年通り0~9歳で全体の85%を占めていた。
- 10歳から14歳までも例年より多く、新型コロナ流行時に感染の機会がなかった年齢層での感染があったと考えられる。

(水野 文子 記)

6. 感染性胃腸炎

図 6-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

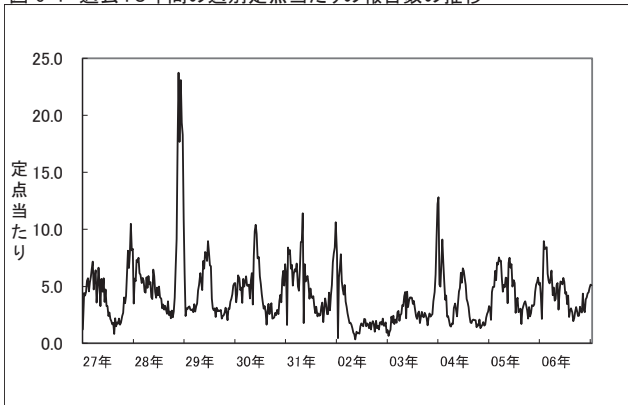


図 6-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

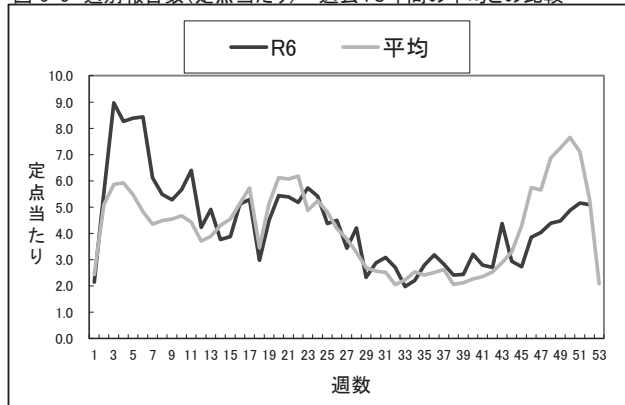


図 6-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

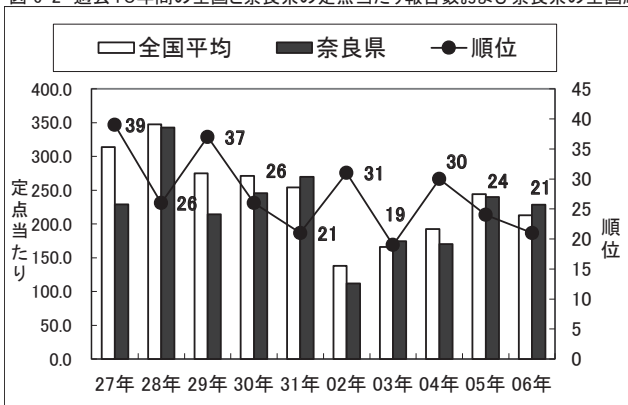


図 6-6 年齢別報告数(実数)

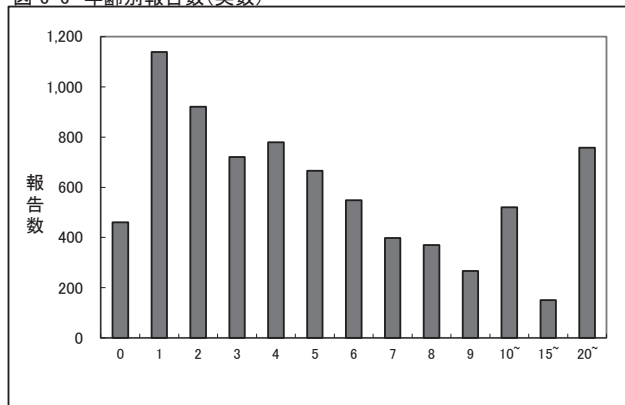
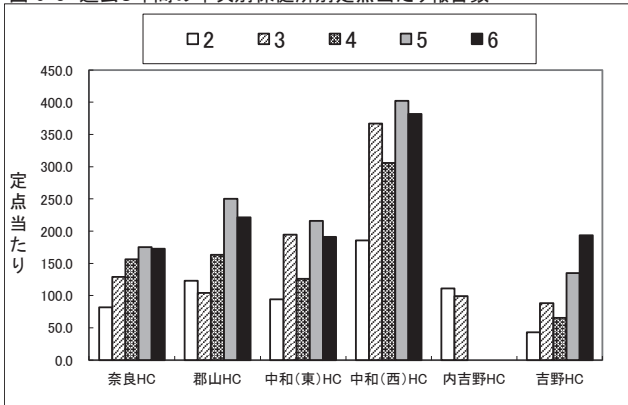
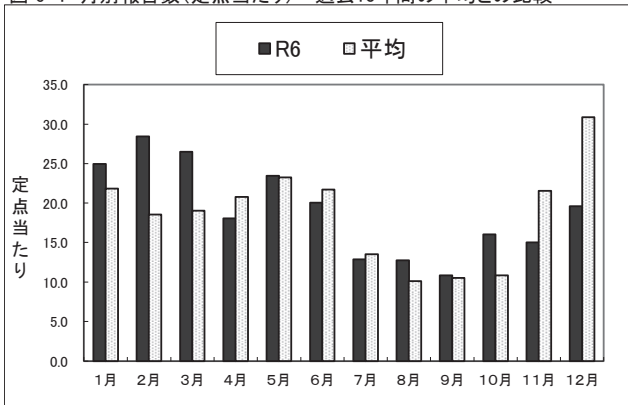


図 6-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 6-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

・令和6年における全報告数は7697例、定点当たり228.51で、令和5年よりやや減少している。

過去10年間の定点当たり報告数で見ると、全国平均(213.03)よりやや多く、新型コロナウイルス感染症流行前の報告数に戻った。

・保健所別定点当たり報告数は中和(西)が最多、次いで郡山、吉野、中和(東)、奈良市で吉野以外は昨年をやや下回っている。

・月別定点当たり報告数は、2月をピークに1~3月が過去10年間の平均より多く、4月にやや減少するが、6月までは過去10年間平均とほぼ同様の報告数を示す。夏季にいったん減少し、10月から冬のピークに向け増加するが過去10年間の平均ほど顕著ではない。

・週別定点当たり報告数も、年初から14週くらいまで過去10年間の平均を上回り、夏のピークから40週頃までは例年通り、過去10年間平均と同様に推移、その後冬に向けては緩やかな増加を示している。

・年齢別の実報告数は、例年と同様1歳(1139例)が最多で、0歳(460例)2歳(921例)、3歳(721例)、4歳(779例)、5歳(666例)の乳幼児期で全体の61%を占めている。

(水野 文子 記)

7.水痘

図 7-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

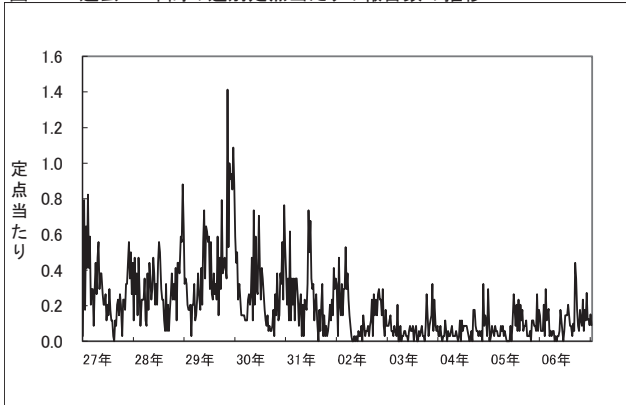


図 7-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

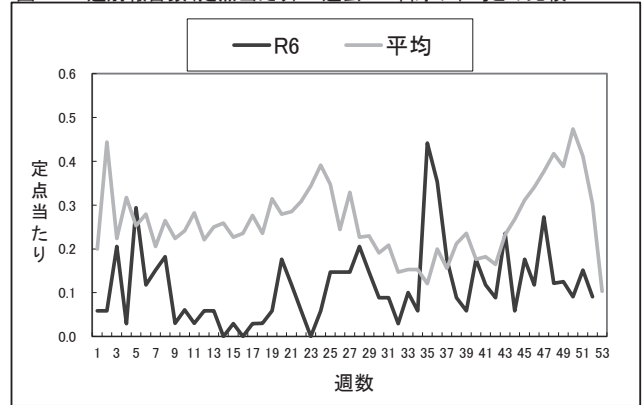


図 7-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

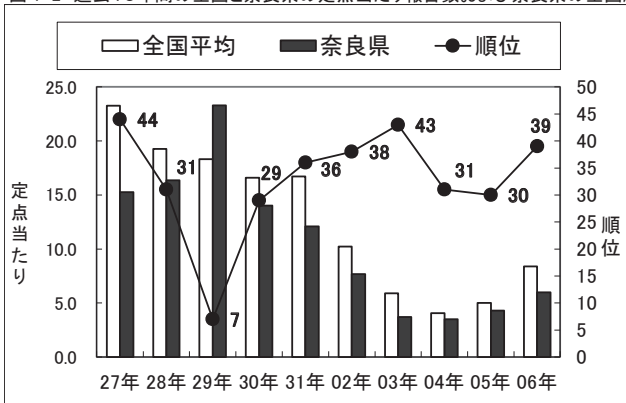


図 7-6 年齢別報告数(実数)

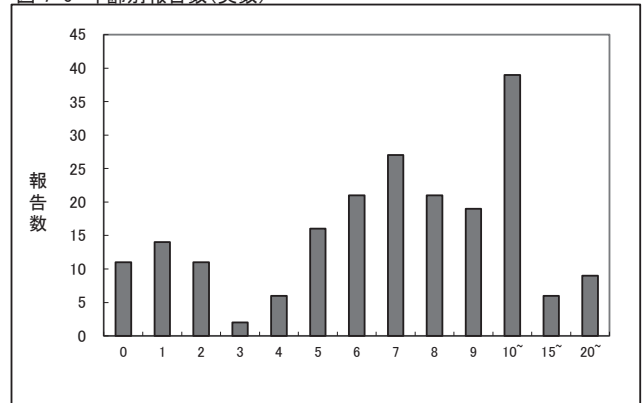
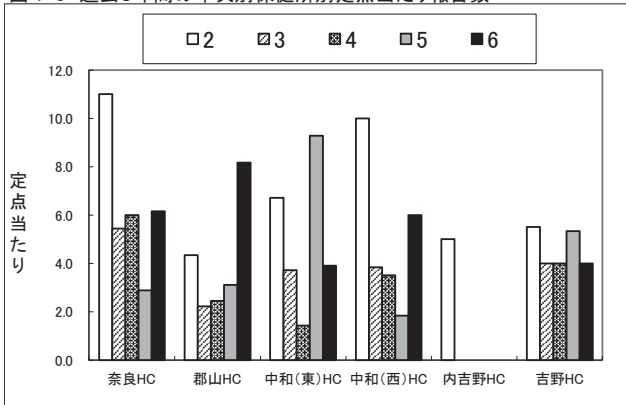
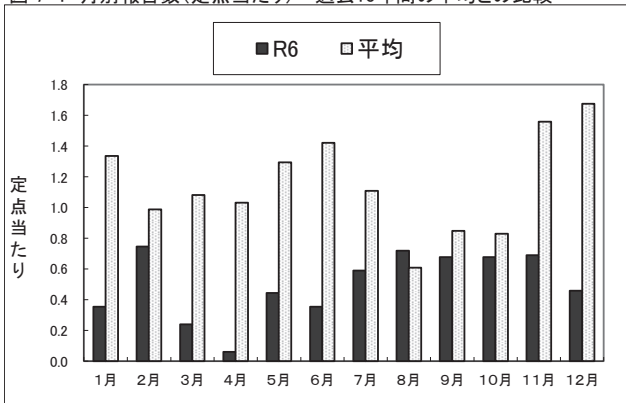


図 7-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 7-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

- ・令和6年における全報告数は202例、定点当たり報告数は6.00(全国8.38)で前年より増加している。
- ・過去10年間の定点あたり報告数では、全国での増加よりは緩やかで、奈良県の全国順位は39位。(前年30位)

- ・保健所別定点当たりの報告数は、郡山、奈良市、中和(西)で昨年より急増し、次いで吉野、中和(東)では昨年より減少している。

- ・月別定点当たり報告数は、過去10年間平均での冬と夏のピークがある傾向から、2月に定点当たり0.75を示して以降は減少。5月頃から増加し、0.7前後が11月まで続き夏場のピークははっきりしなかった。過去10年間の平均を上回ったのは8月のみだった。

- ・週別定点あたり報告数も、6週、35~37週および43週のみ過去10年間の平均を上回っただけで、2014年からの定期ワクチン接種の効果と考えられる。

- ・年齢別の実報告数は、2012年の小児科学会のワクチン2回接種推奨、2014年からの定期接種導入前には0~2歳で全体の4割近くを占めていたが、令和6年は0歳11例、1歳14例、2歳11例で全体の17.8%まで減少した。(水痘入院例は全年齢層が含まれる)

2014年のワクチン定期接種導入後、全国的に感染者数は漸次減少していたが、新型コロナ感染症流行時の低値を経て、増加傾向にある。定期接種の機会がなかった世代へのキャッチアップ接種も実施されているが、14歳まででも接種歴ありが7割以下にとどまっていること、1回接種のみでの抗体価低下によるブレイクスルー感染の感染者数の増加などが理由として考えられている。(水痘の予防可能なEIA抗体価4以上は15歳~19歳で約80%、0~14歳は80%に満たない...国立感染症研究所のデータから) 近年、帯状疱疹患者も増え続けており、帯状疱疹患者からの感染の可能性も示唆されている。引き続き、水痘と帯状疱疹、双方からの対策を進める必要がある。

(水野 文子 記)

8.手足口病

図 8-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

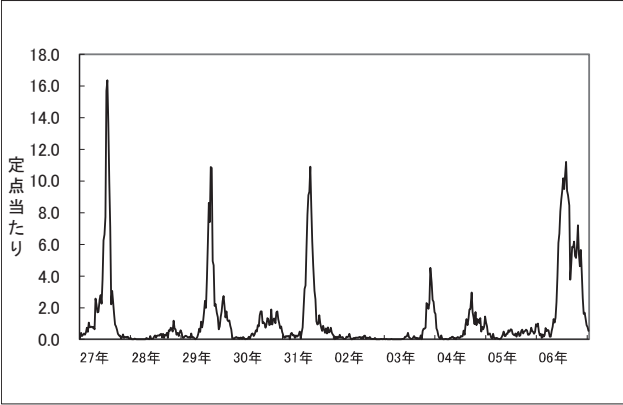


図 8-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

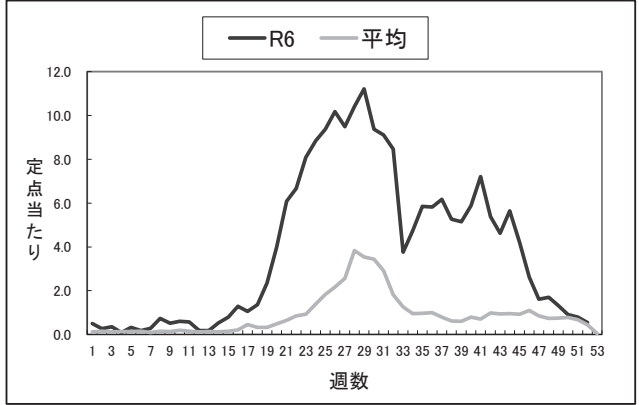


図 8-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

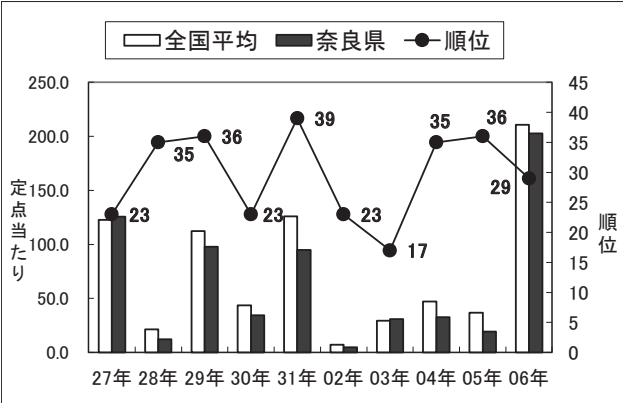


図 8-6 年齢別報告数(実数)

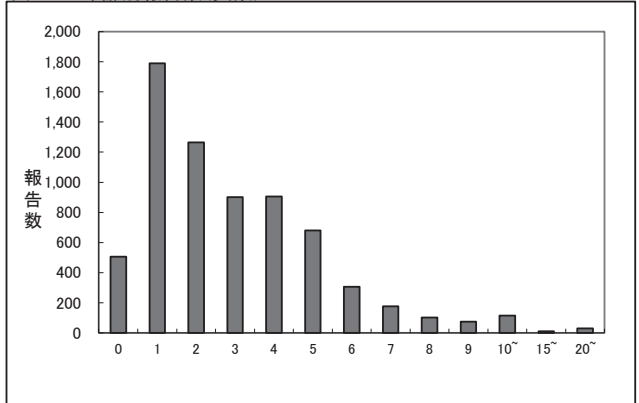
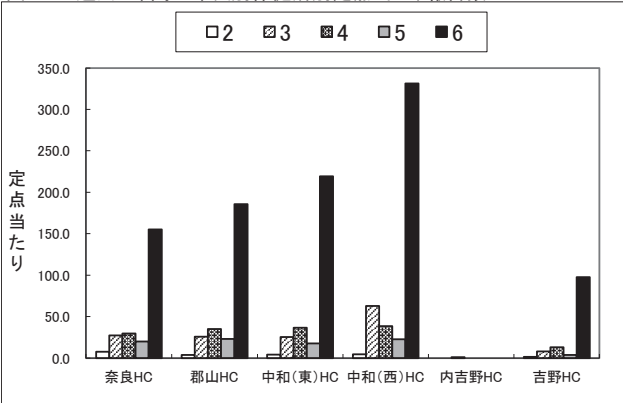
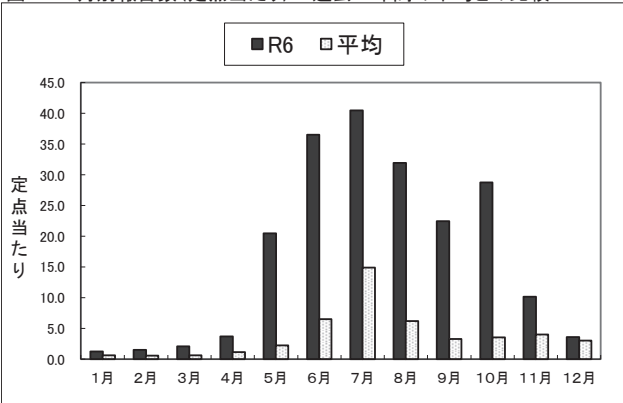


図 8-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 8-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年の手足口病は全国の傾向と同じく、過去の発生数より明らかな増加傾向を呈した。主に第20週から第49週あたり(5月～11月)が例年よりも増加傾向にあり、年齢分布としては5歳以下に集中していた。病原微生物検出情報(IASR)によると、全国的に第20週から第32週あたりまではコクサッキーA6、第33週あたりから第49週まではコクサッキーA16が優位な原因ウイルス株であった。手足口病の原因ウイルスであるコクサッキーやエンテロウイルスはアルコールに抵抗性である事が多く、流水での手洗いの励行が必要である。流行状況を見ながら地域での手洗いの啓発活動が今後も必要となる。

(宇野 健司 記)

9. 伝染性紅斑

図 9-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

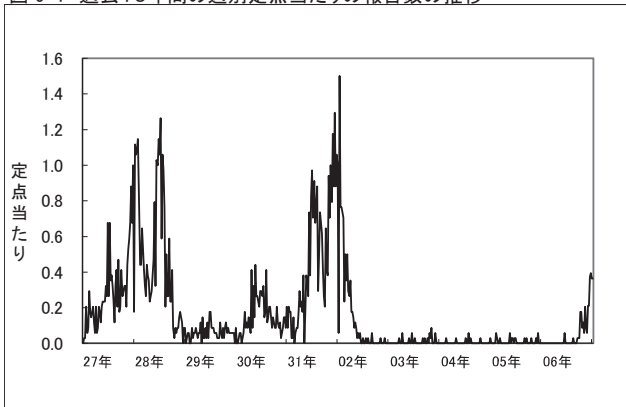


図 9-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

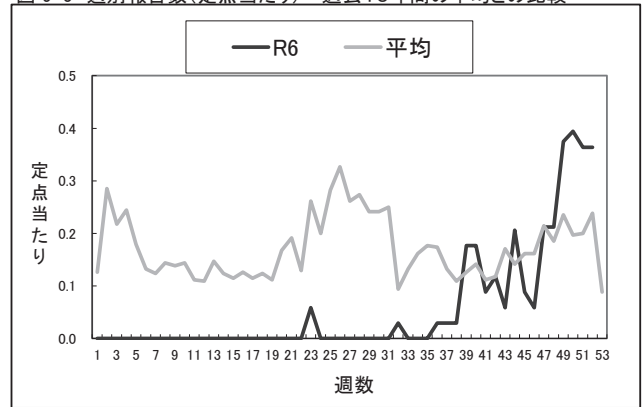


図 9-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

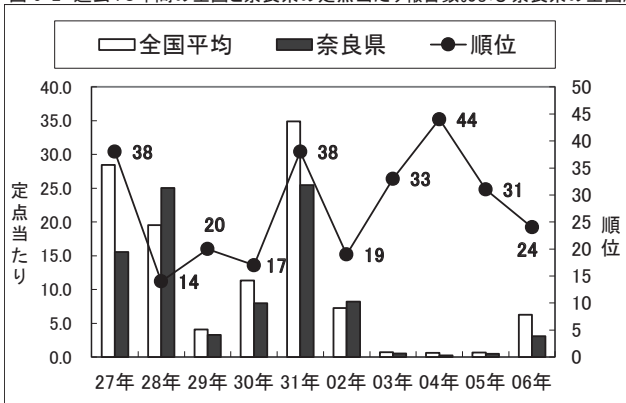


図 9-6 年齢別報告数(実数)

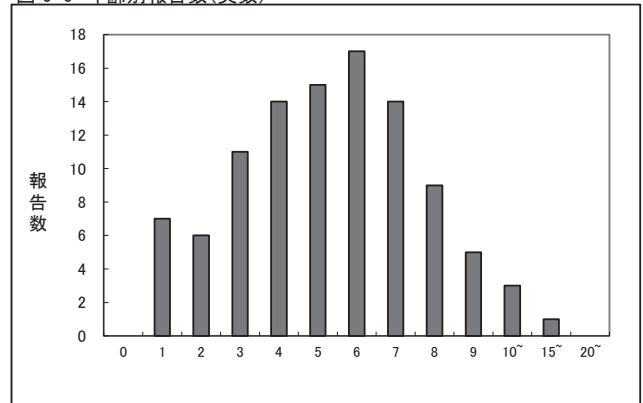
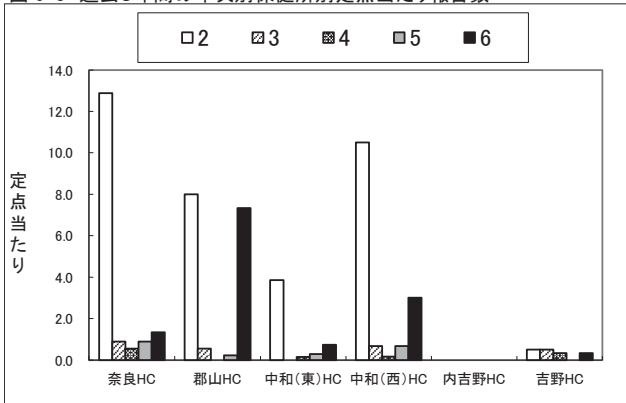
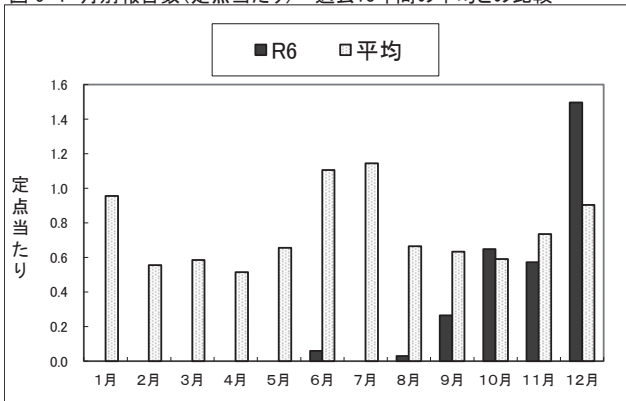


図 9-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 9-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年の伝染性紅斑の流行状況は、全国の傾向と同じく第49週あたりより例年の平均よりも高い状態に変化し、以後増加傾向を示した。過去のデータ、病原微生物検出情報(IASR)からは、4年から6年毎の流行があり、平成31年/令和元年が前のピークである事から過去と同様な流行サイクルになっている。年齢分布は6歳をピークとして小児全体で認められた。伝染性紅斑自体は妊婦に特に重篤な合併症が出現する事があり、地域で流行している場合にはできるだけ感冒様症状のある人との接触を避け、手洗い、マスクの着用を行う様、基本的な感染対策を啓発する必要がある。

(宇野 健司 記)

10.突発性発しん

図 10-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

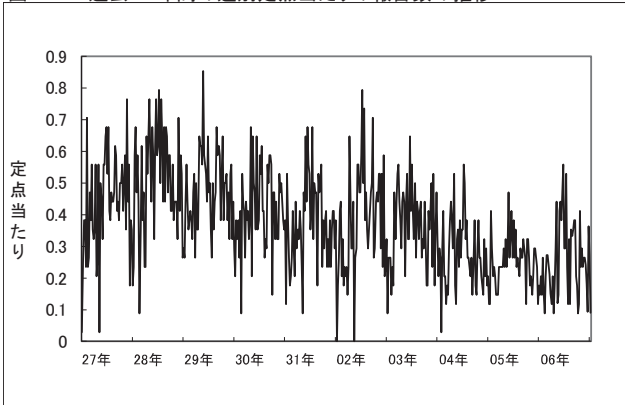


図 10-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

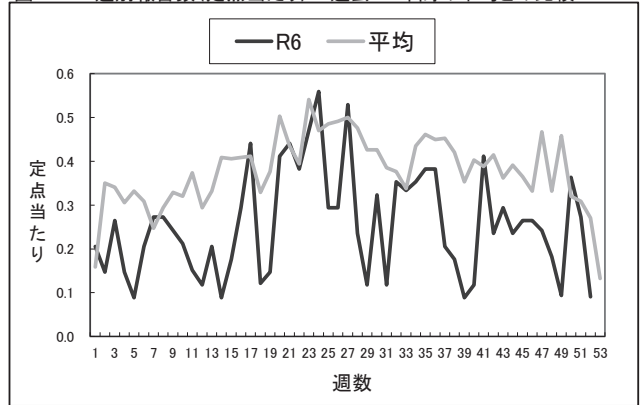


図 10-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

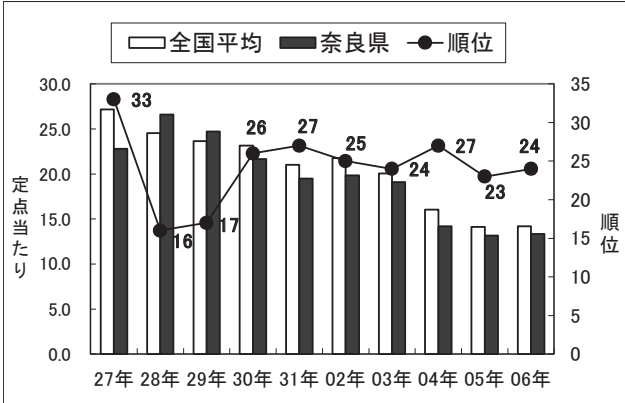


図 10-6 年齢別報告数(実数)

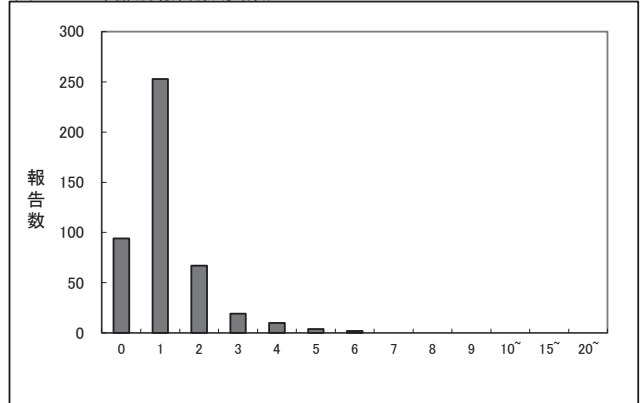
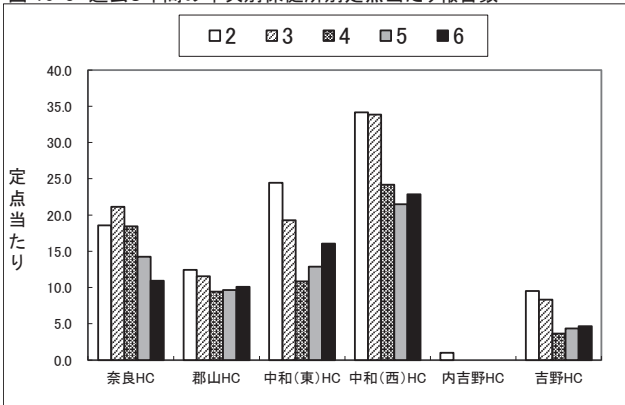
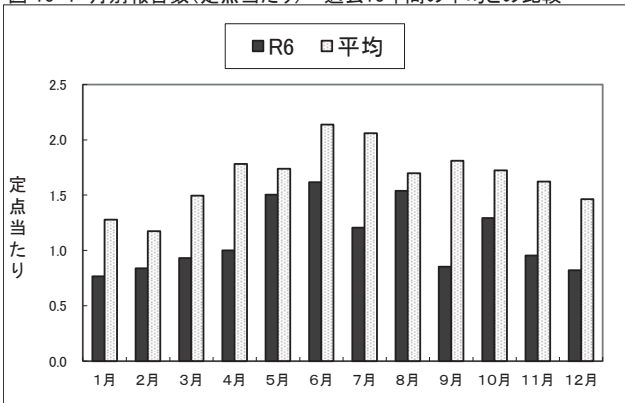


図 10-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 10-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年の突発性発疹は年間を通して例年とほぼ同じか少ない状態にあった。年齢は1歳以下が多かった。特に地域別で特徴的な変化は認められていなかった。

(宇野 健司 記)

11.ヘルパンギーナ

図 11-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

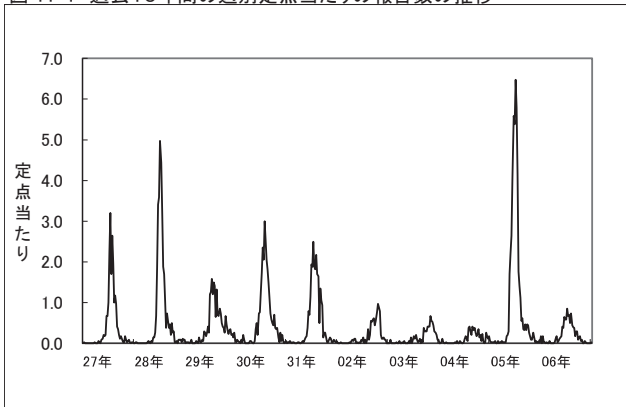


図 11-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

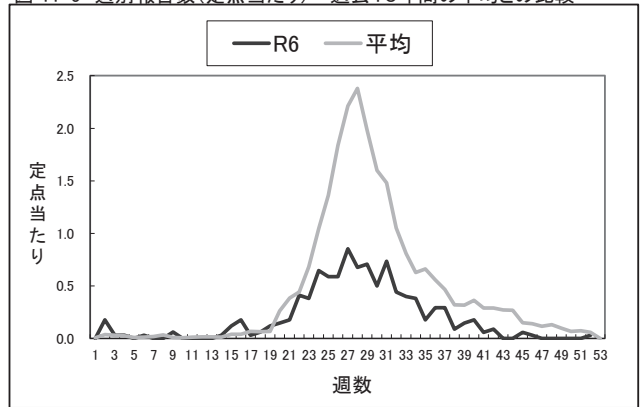


図 11-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

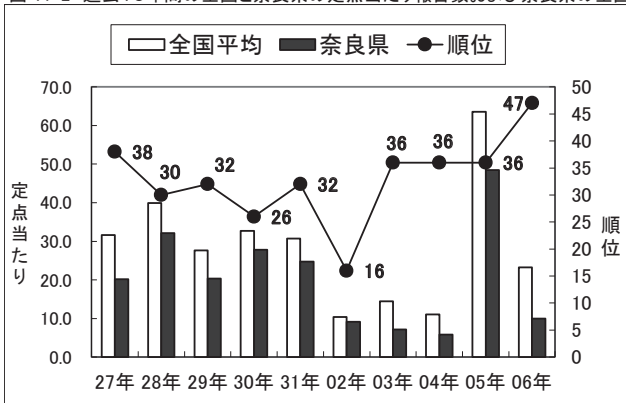


図 11-6 年齢別報告数(実数)

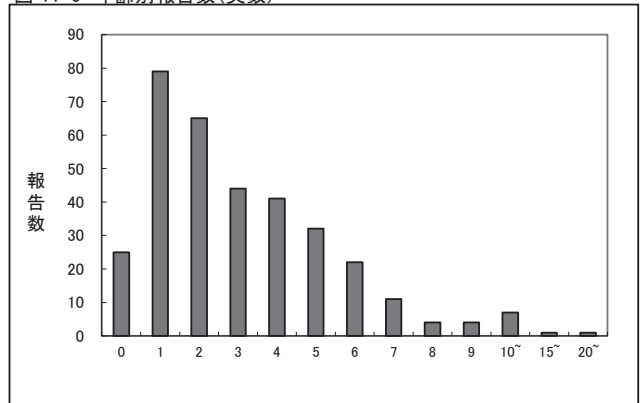
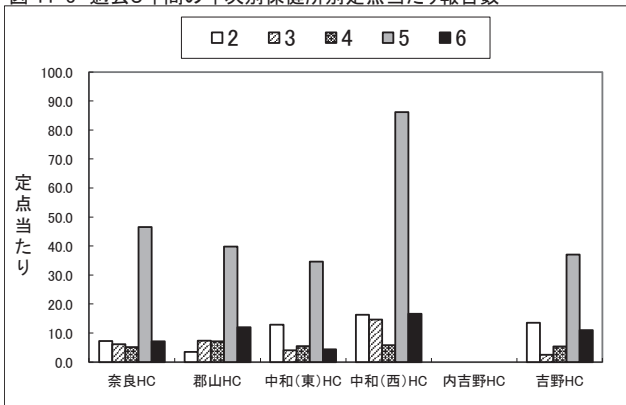
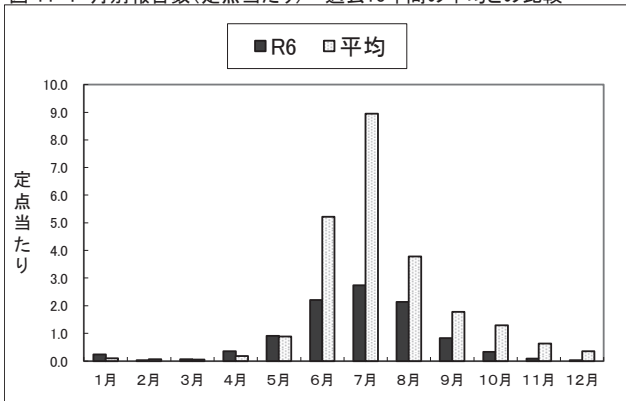


図 11-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 11-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年の奈良県の報告数は336人(定点当たり9.93)であった。

【図11-1】過去10年間での最多の週は、令和5年の第26週(6.47)(220人)で、その次が平成28年の第27週(4.97)(169人)であった。

【図11-2】令和5年は、全国平均が63.56、奈良県が48.44(全国第36位)と、共に過去10年で最多であったが、令和6年は、全国平均が23.23、奈良県が9.93(全国47位)と共に著減であった。また、奈良県は10年連続で全国平均を下回っていた。

【図11-3】令和6年は、①中和(西)(16.67)、②郡山(12.01)、③吉野(11.00)、④奈良市(7.11)、⑤中和(東)(4.43)の順であった。また、同一保健所管内での過去5年間の推移では、5保健所管内すべてにおいて、最多であった令和5年に比し令和6年が顕著な減少であった。

【図11-4】最多の月は、10年平均が7月(8.95)で、令和6年も7月(2.74)であった。

【図11-5】最多の週は、10年平均が第28週(2.38)で、令和6年は第27週(0.85)(29人)であった。

【図11-6】0歳が25人。1歳が79人で最多であった。以下、8歳・9歳(各4人)まで年齢が高くなると共に漸減傾向であった。また、年齢階級別報告数は[10-14歳](7人)、[15-19歳] [20-29歳] (各1人)であった。

(柳生 善彦 記)

12.流行性耳下腺炎

図 12-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

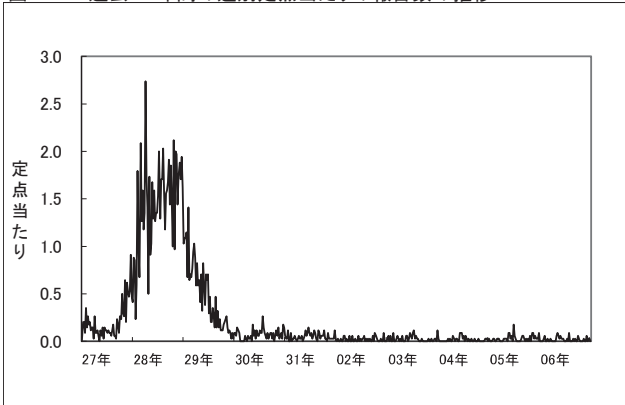


図 12-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

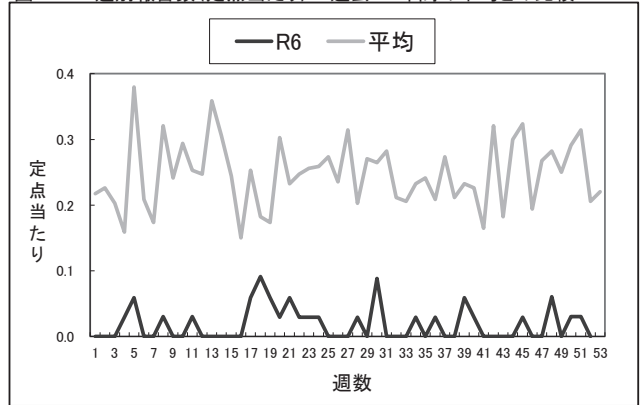


図 12-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

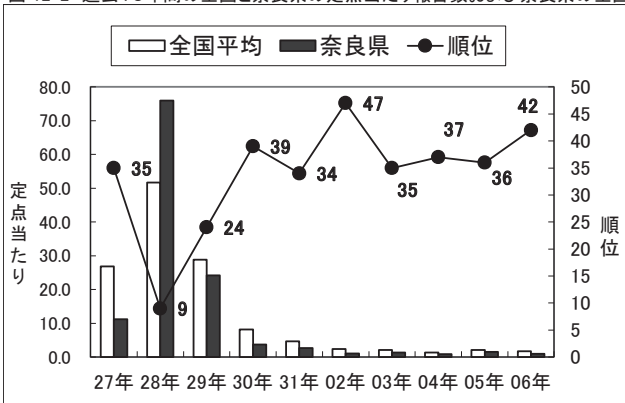


図 12-6 年齢別報告数(実数)

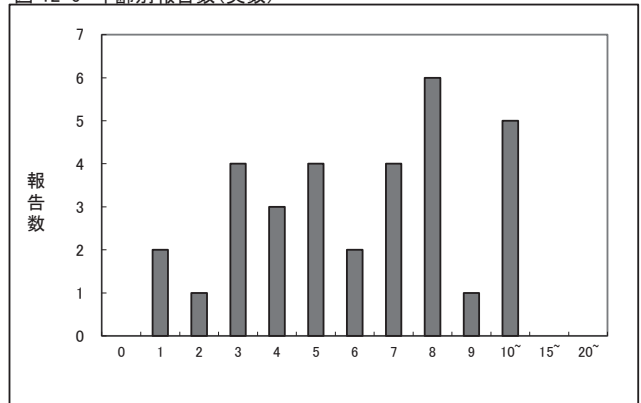
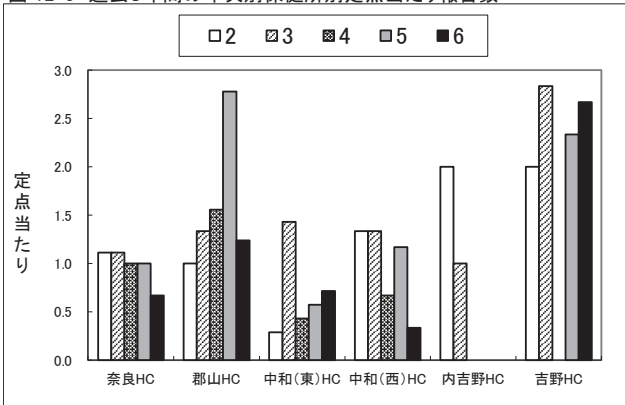
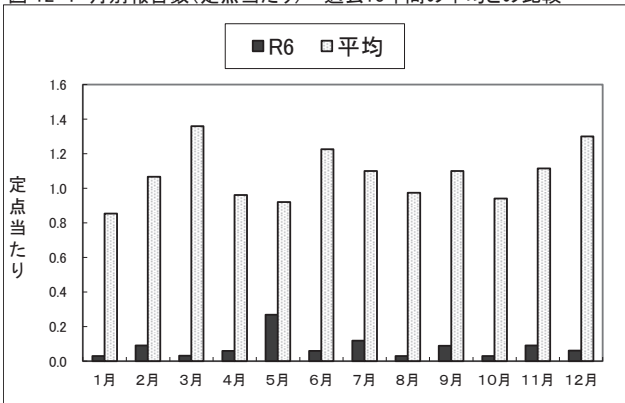


図 12-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 12-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年の奈良県の報告数は32人(定点当たり0.95)であった。

【図12-1】過去10年間での最大の週は、平成28年の第13週(2.74)(93人)であった。平成30年～令和6年は平成30年の第29週の0.26(9人)以下での推移であった。

【図12-2】令和6年は、全国平均は1.76で、奈良県は0.95(全国第42位)であった。過去10年間で奈良県の方が全国平均より上回っていたのは、平成28年(奈良県76.00、全国平均51.71)の1回のみであった。

【図12-3】令和6年は、①吉野(2.67)、②郡山(1.24)、③中和(東)(0.71)、④奈良市(0.67)、⑤中和(西)(0.33)の順であった。また、同一保健所管内の過去5年間の推移では、奈良市と中和(西)では令和6年が最少であった。一方、中和(東)と吉野では、令和6年が令和5年を上回り、5年間における2番目の多さであった。

【図12-4】最大の月は、10年平均が3月(1.36)で、令和6年は5月(0.27)であった。

【図12-5】10年平均では、1年を通して0.15(第16週)～0.38(第5週)の振幅内での推移であった。一方、令和6年は、0.00～0.09(3人)(第18、30週)の振幅内での推移であった。

【図12-6】8歳(6人)が最多で、続いて3歳、5歳、7歳(各4人)の順で、最少は0歳(0人)であった。年齢階級別報告数は[10-14歳]5人であった。

(柳生 善彦 記)

眼科定点分

13.急性出血性結膜炎

図 13-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

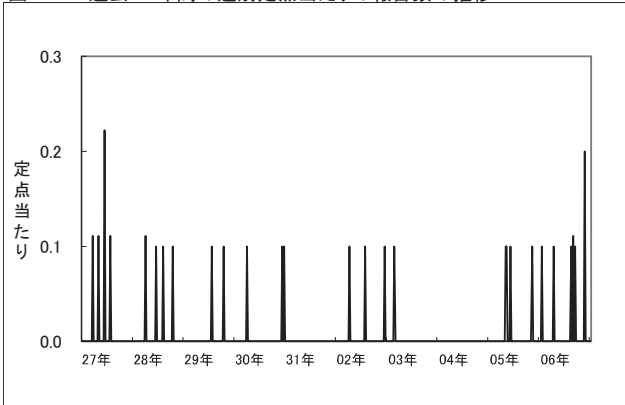


図 13-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

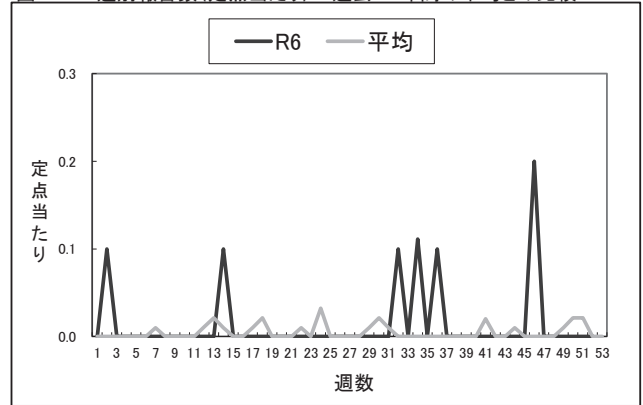


図 13-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

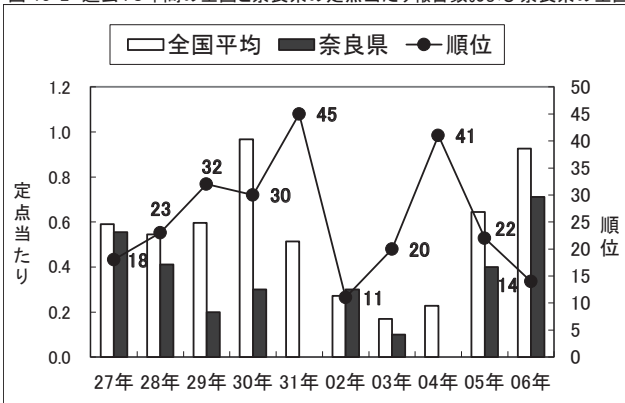


図 13-6 年齢別報告数(実数)

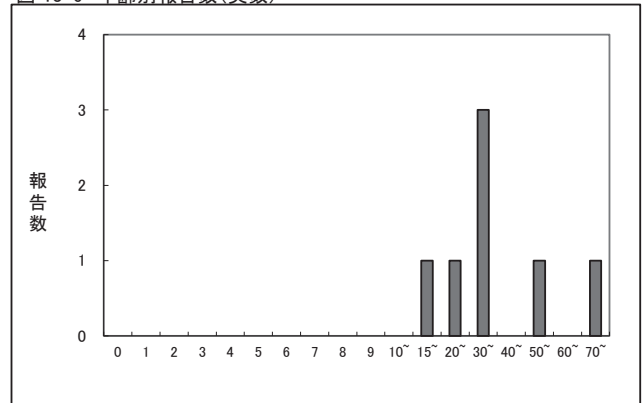
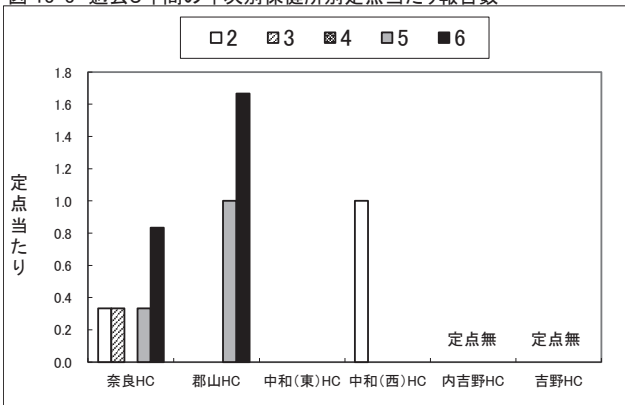
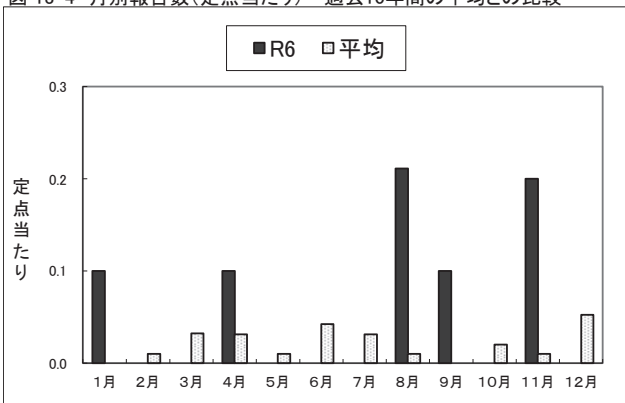


図 13-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 13-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点では7例の報告があり全国順位は14位であった。奈良市保健所、郡山保健所より報告があり、15-19歳代1例、20歳代1例、30歳代3例、50歳代1例、70歳代1例であった。

(平井 宏明 記)

14.流行性角結膜炎

図 14-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

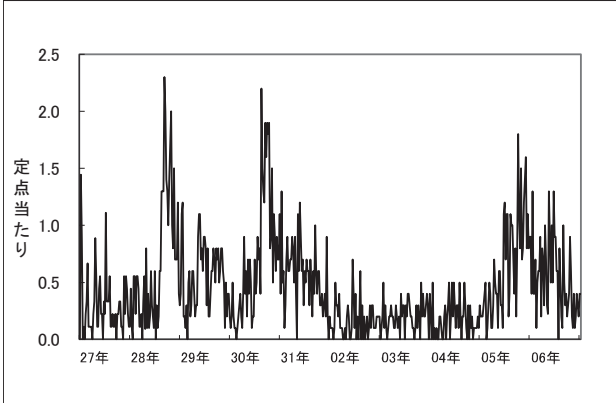


図 14-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

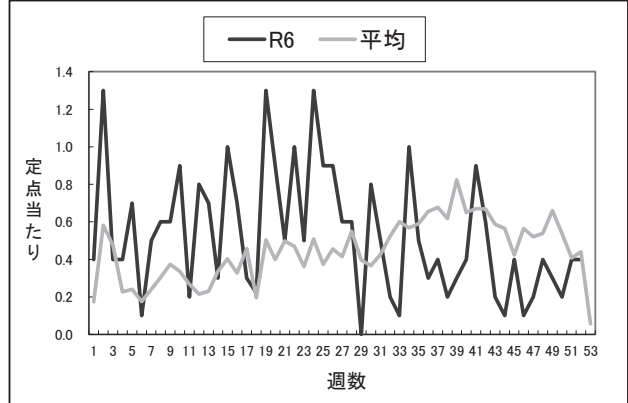


図 14-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

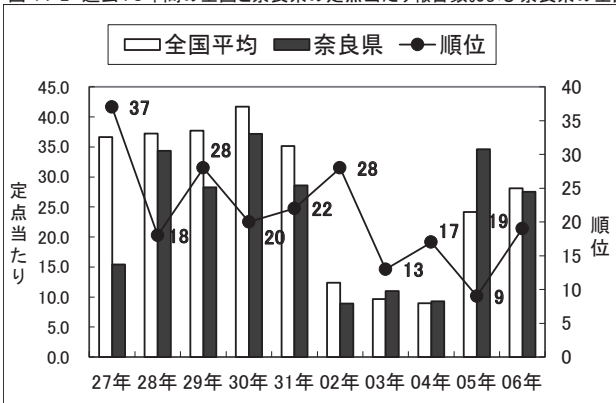


図 14-6 年齢別報告数(実数)

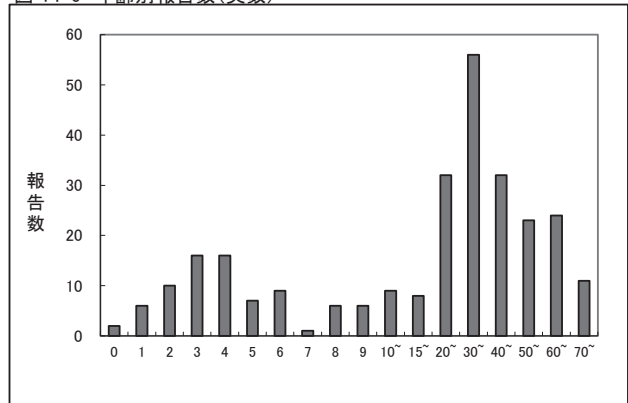
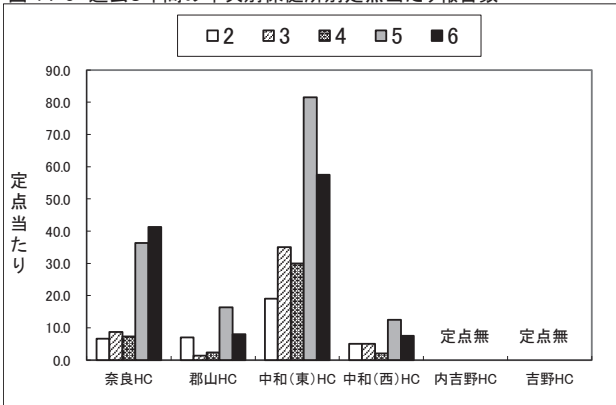
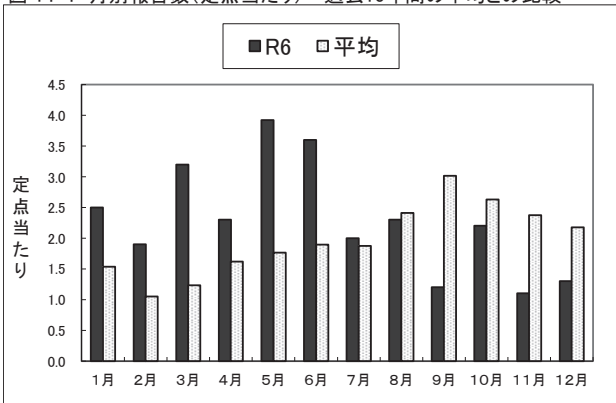


図 14-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 14-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点全体では274例の報告があった。前年の346例の79%に減少していた。奈良県の定点あたりの報告数27.52(令和5年は34.60)は全国平均28.11(令和5年は24.19)の97.9%であった。順位は19位と昨年の9位より下がった。月別報告数の推移では、この10年間の平均では9月にピークとなったが、令和6年度では5月、6月、3月の順に感染数の増加が認められ、9月は11月に次いで少なかった。2週、19週、24週に定点あたりの報告数が1.30と最大となった。定点あたりの報告数では、令和6年は中和(東)が57.50と去年と同様に特に多く、奈良41.33、郡山8.00、中和(西)7.50と続いた。(吉野、内吉野では定点医療機関が設置されていないため、報告なし)
年齢別では30歳代が56例(20.4%)と最も多く、次いで20歳代40歳代が32例と続き、この3つの年代で120例(43.8%)を占めた。子供世代では、3歳4歳が共に16例と多く、次いで2歳10例、6歳9例と続いた。9歳までの79例から親子間での感染を示唆しているのかもしれない。次いで60歳代の24例が多かった。

(平井 宏明 記)

基幹定点分(週報)

15.細菌性髄膜炎

図 15-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

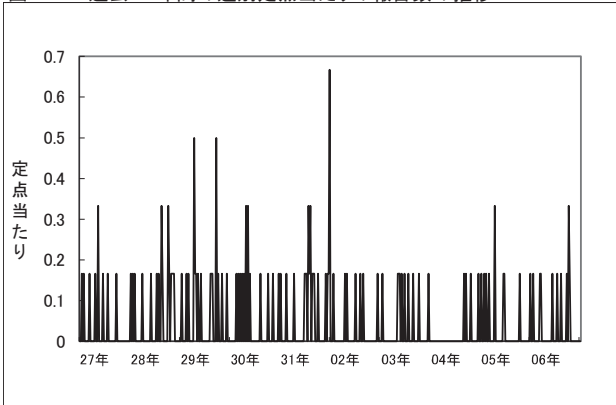


図 15-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

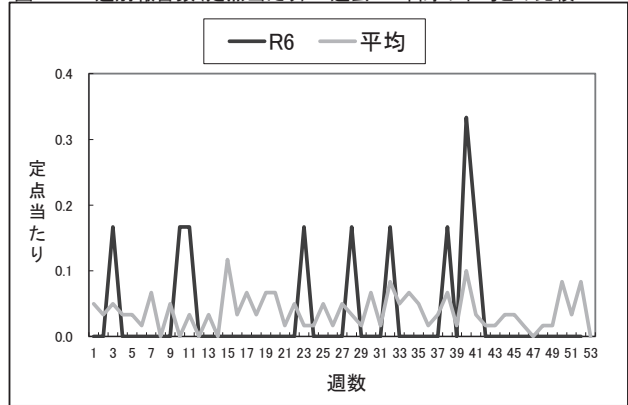


図 15-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

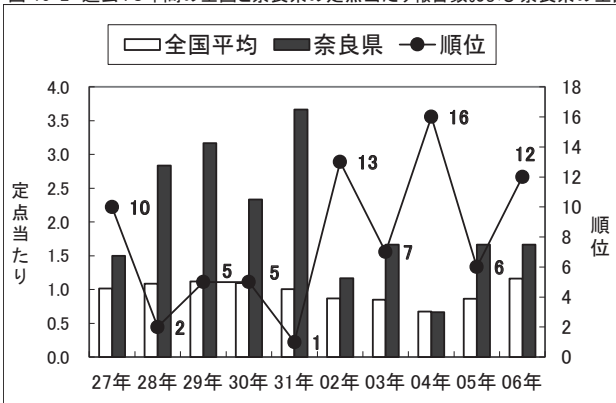


図 15-6 年齢別報告数(実数)

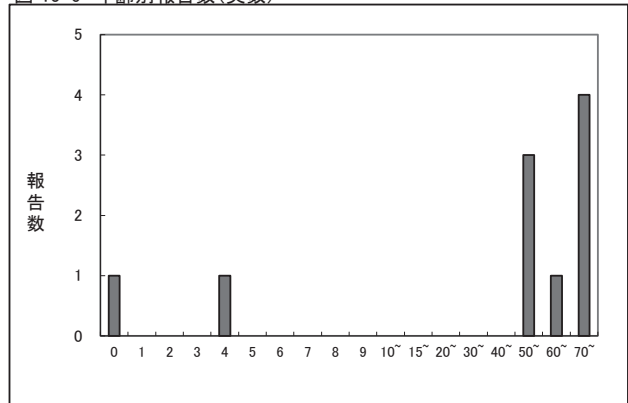
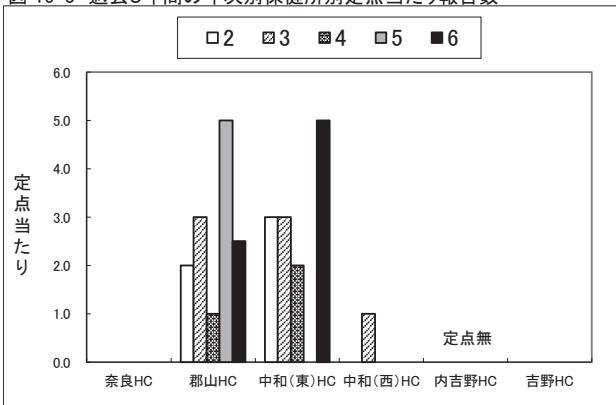
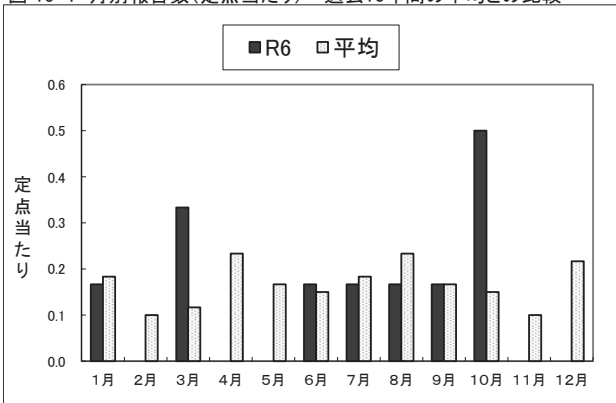


図 15-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 15-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年の奈良県における細菌性髄膜炎の報告数は10例で、定点あたり1.67件であり、令和5年と同様の水準であった。奈良県はこれまで細菌性髄膜炎の報告が比較的多い地域であり、報告数は令和5年に全国6位、令和6年に12位であった。年齢別では50歳以上の高齢者と乳幼児に発症がみられ、特に50歳以上の発症が多い傾向にあった。細菌性髄膜炎の原因菌は年齢や基礎疾患により異なるが、50歳以上では肺炎球菌が主要な原因菌であり、ワクチンによる予防が重要である。全国と比較して奈良県の発生数は依然として多いと推察されることから、ワクチン接種率のさらなる向上が望まれる。

(矢野 寿一 記)

16.無菌性髄膜炎

図 16-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

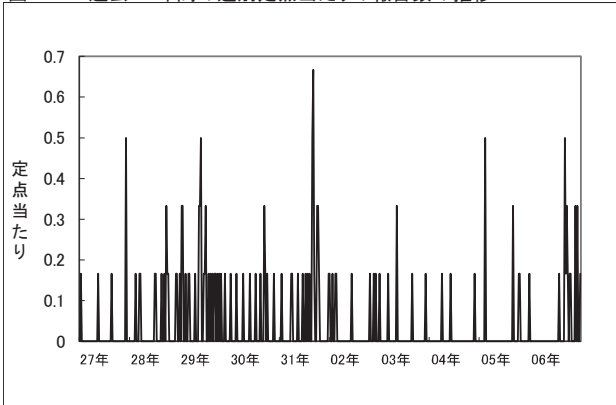


図 16-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

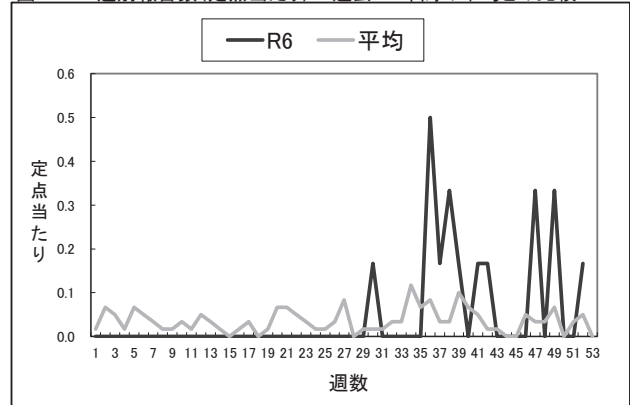


図 16-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

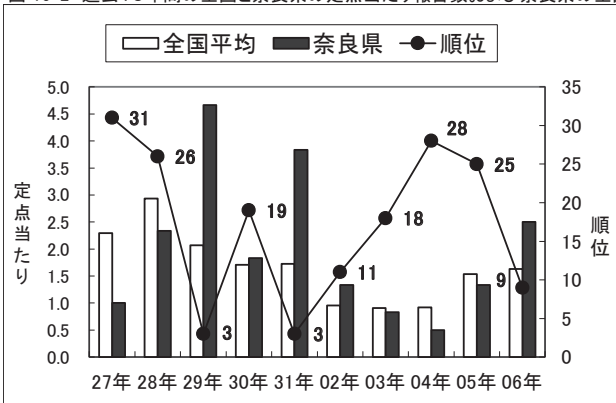


図 16-6 年齢別報告数(実数)

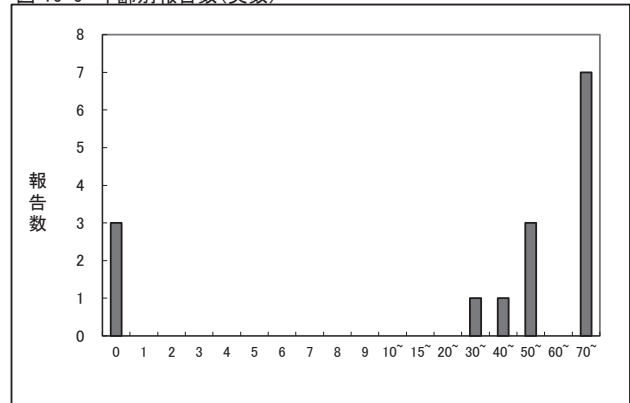
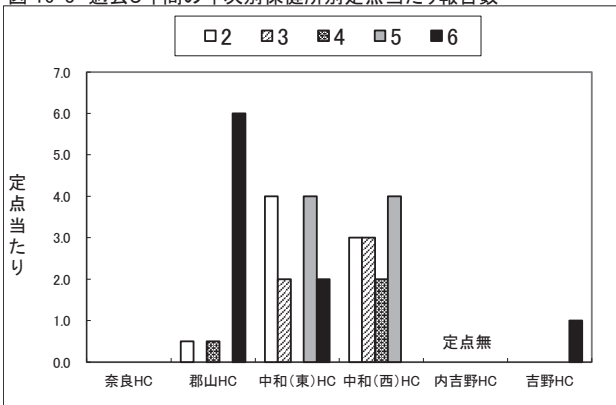
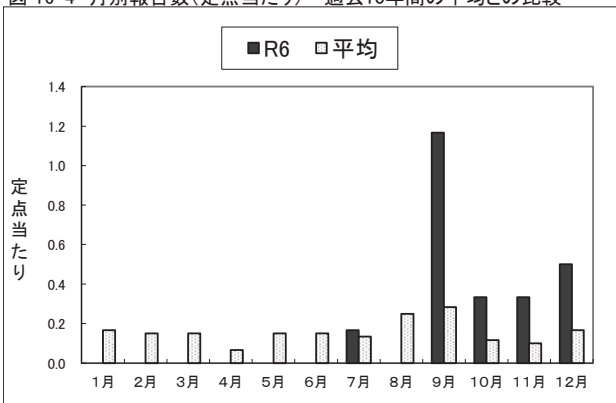


図 16-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 16-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

奈良県における令和6年の無菌性髄膜炎の報告数は15例、定点あたり2.50件であった。奈良県からの報告数は、令和5年には全国平均レベルであったが、令和6年には増加し全国9位となった。令和6年は全国的に手足口病が例年より流行し、無菌性髄膜炎の増加が懸念されたものの、全国レベルで定点あたりの報告数増加はみられなかったようである。

(矢野 寿一 記)

17.マイコプラズマ肺炎

図 17-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

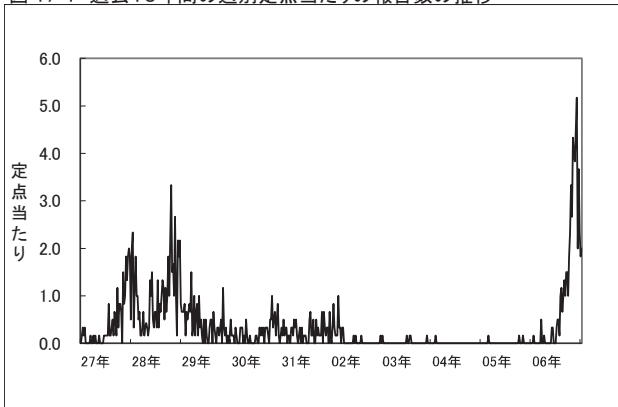


図 17-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

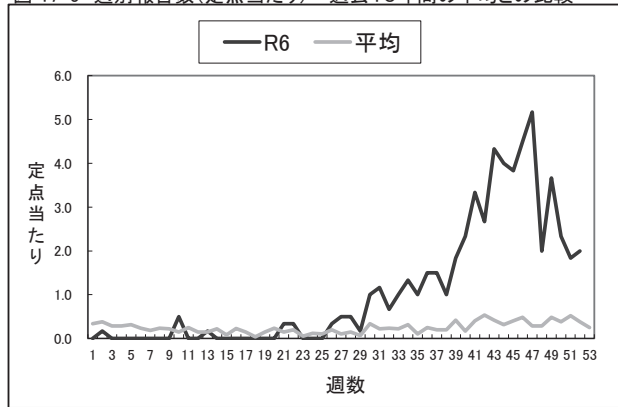


図 17-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

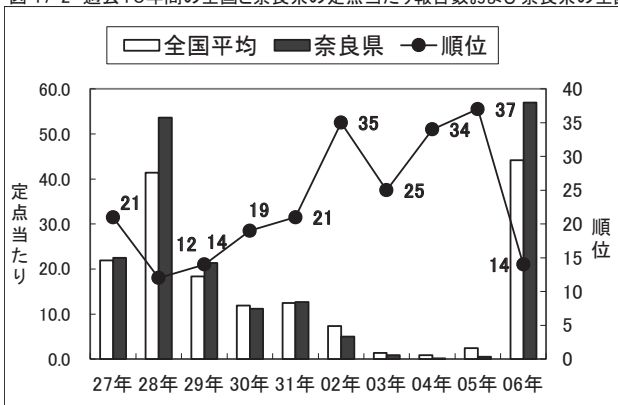


図 17-6 年齢別報告数(実数)

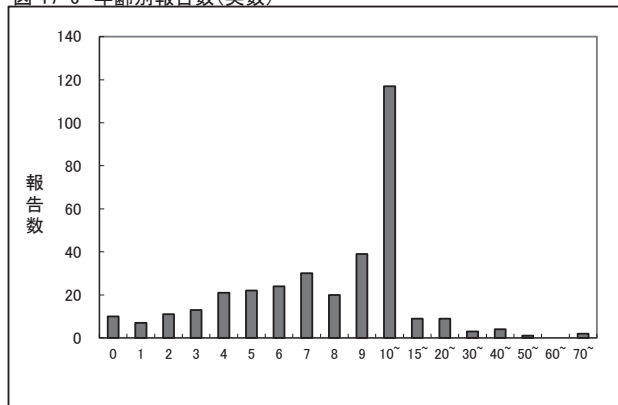
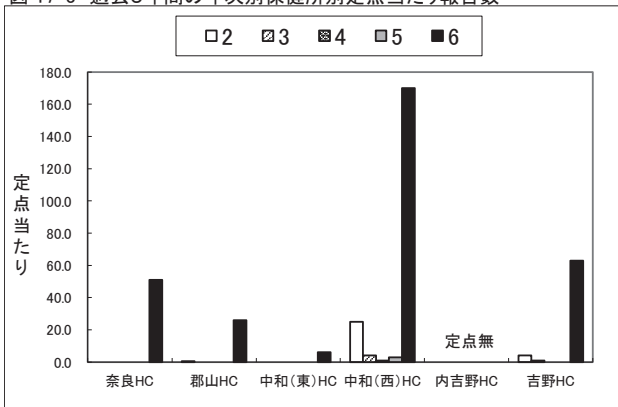
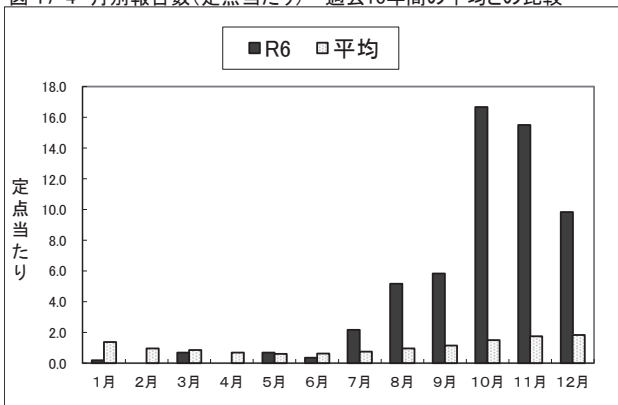


図 17-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 17-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年における奈良県のマイコプラズマ肺炎報告数は342例、定点あたり57.00件であり、令和5年の3例、0.50件と比較して大幅に増加した。特に第30週以降の増加が顕著であった。これは全国的な流行を反映したものと考えられ、全国の定点あたり報告数も令和5年の2.43件から令和6年には44.18件へと増加し、平成11年以降で最多となったようである。この状況を受け、日本感染症学会等から提言が、厚生労働省から注意喚起が発出されている。また、一部地域ではマクロライド耐性株の増加も報告されており、今後の治療上の課題となる可能性がある。なお、近年の我が国の発生動向調査ではマイコプラズマ肺炎の大規模流行は2年程度継続する傾向があり、令和7年の発生動向についても引き続き注視が必要である。

(矢野 寿一 記)

18.クラミジア肺炎

図 18-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

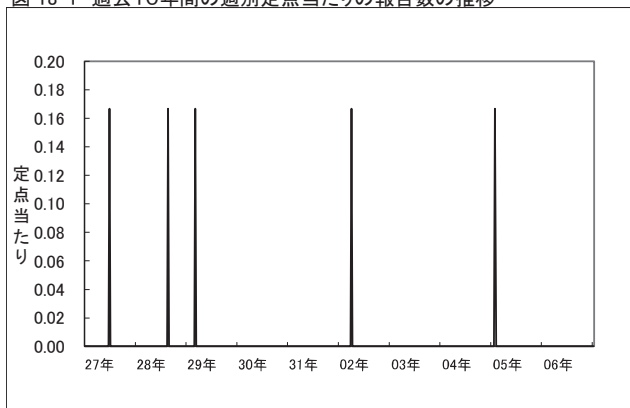


図 18-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

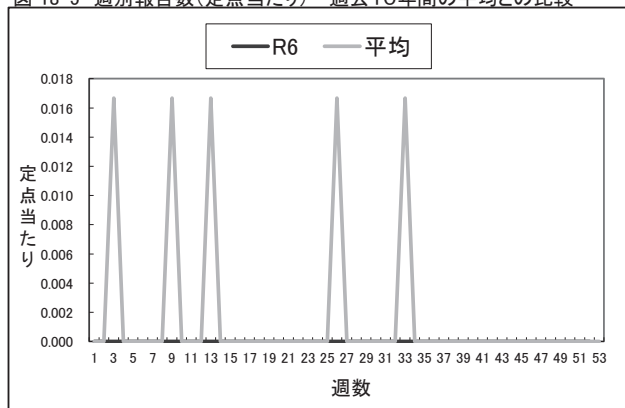


図 18-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

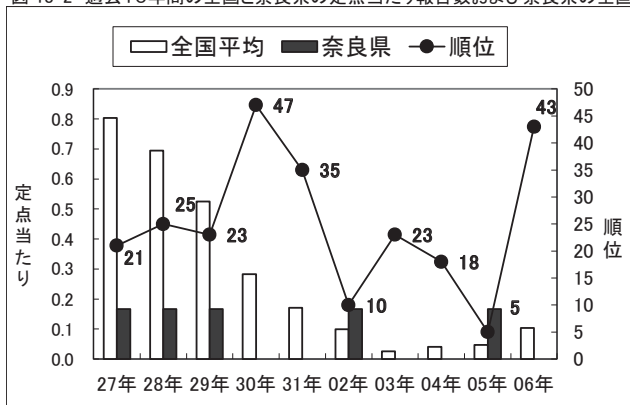


図 18-6 年齢別報告数(実数)

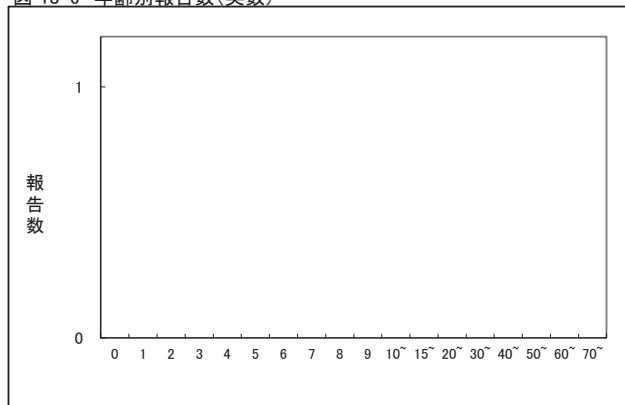
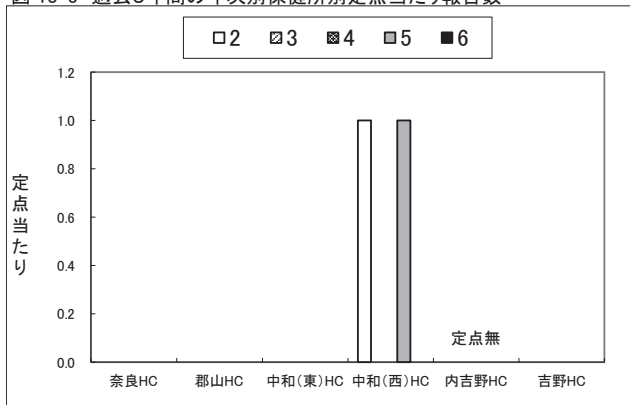
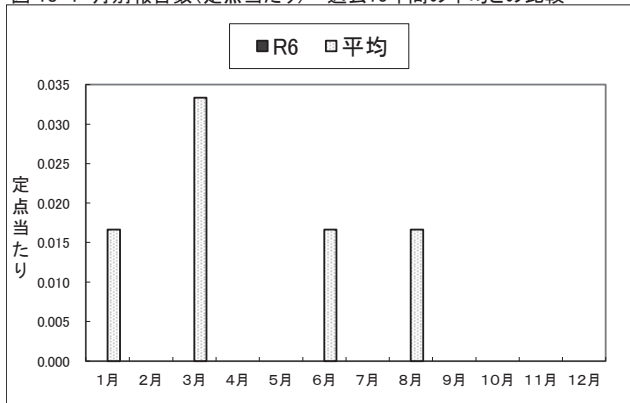


図 18-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 18-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年におけるクラミジア肺炎の報告数は0件であった。診断するのは複雑なこともあり、例年通り低い検出数で推移している。

(矢野 寿一 記)

19. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

図 19-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

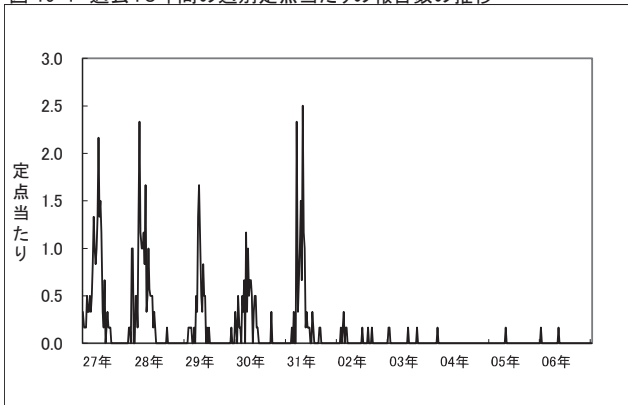


図 19-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

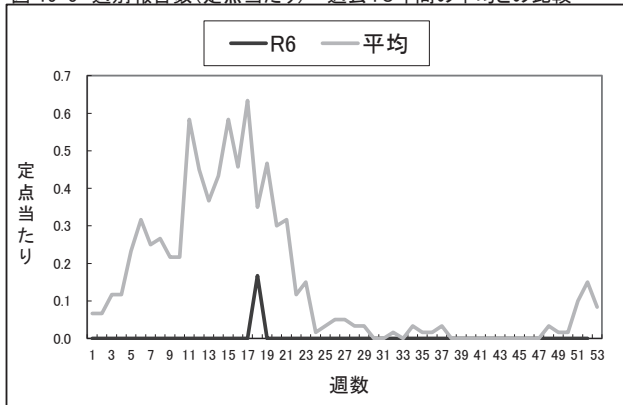


図 19-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

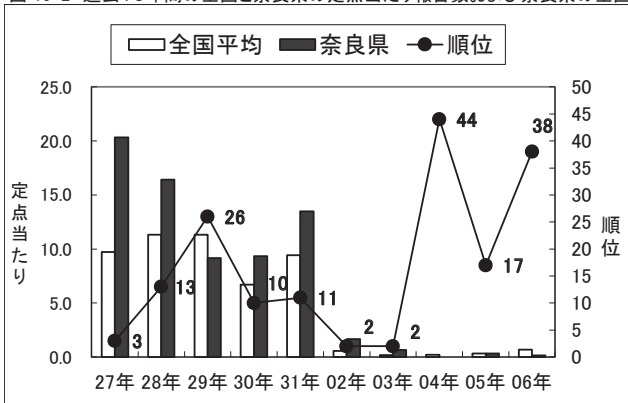


図 19-6 年齢別報告数(実数)

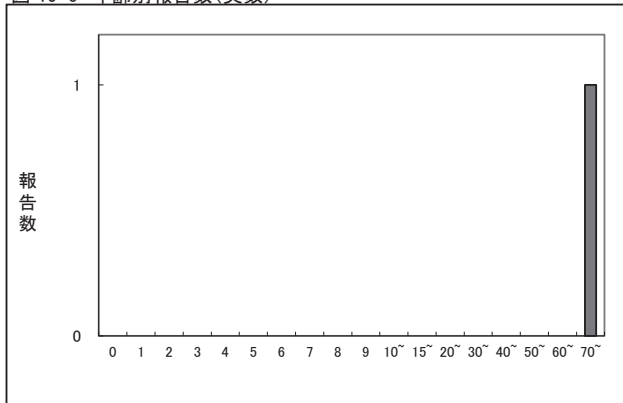
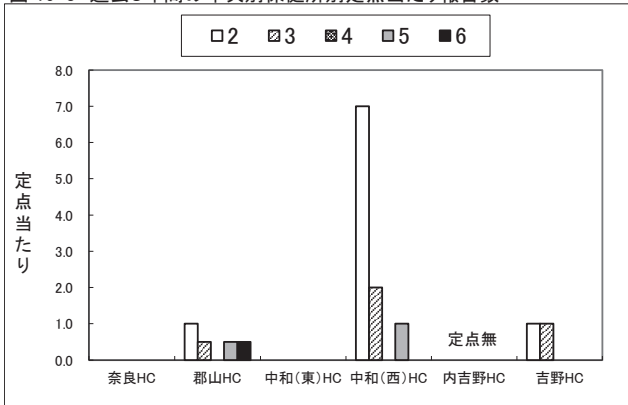
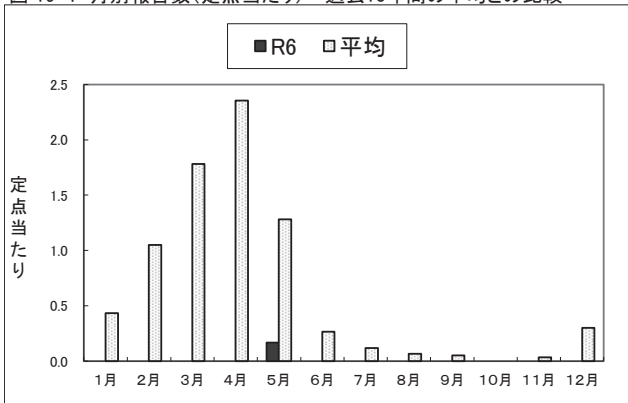


図 19-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 19-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年の奈良県における報告数は1件であった。令和2年以降、全国においても奈良県においても定点あたり報告数は大きく減少している。これは新型コロナウイルス感染症発生による感染抑制効果と、令和2年10月からのロタワクチン定期接種化が大きな要因と考えられる。

(矢野 寿一 記)

性感染症(STD)定点分

20.性器クラミジア感染症

図 20-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

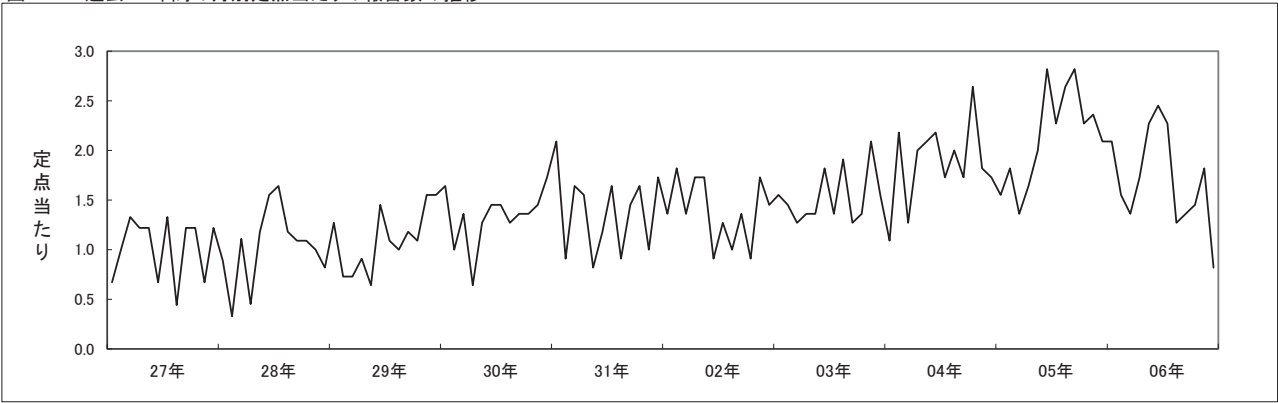


図 20-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

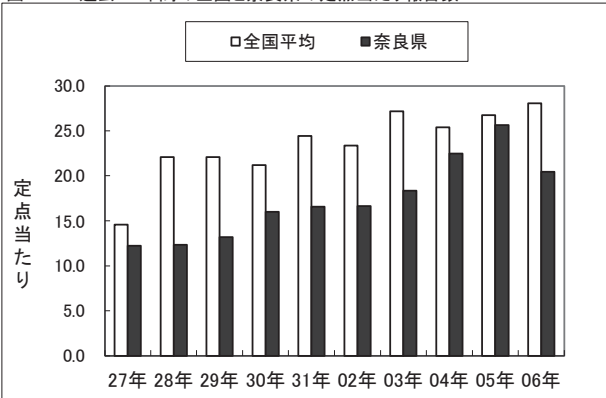


図 20-5 年齢別報告数(実数)

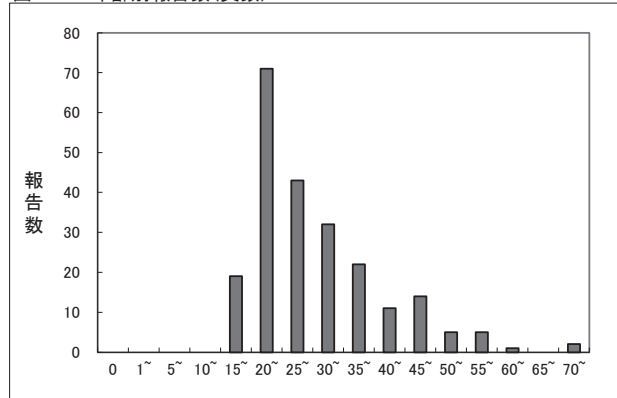
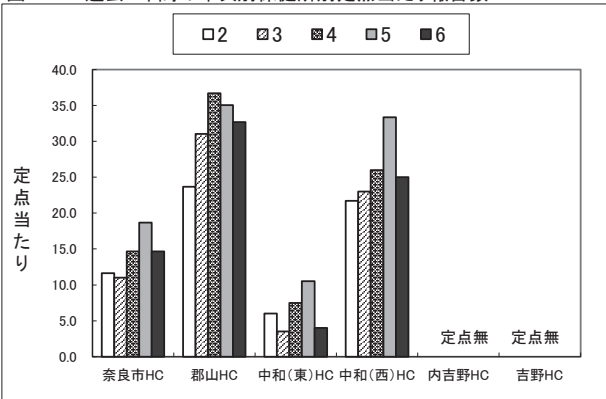
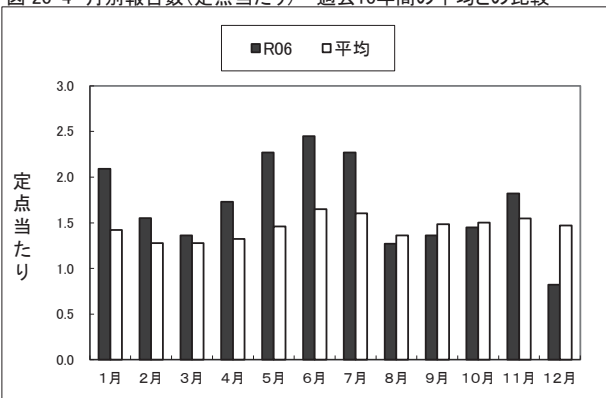


図 20-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 20-4 月別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

性器クラミジア感染症は、過去10年間にわたり定点当たりの報告数が増加していたが、令和6年は減少した。全国平均と比較しても報告数は減少している。保健所別定点当たりの報告数は、例年通り郡山保健所が最多であった。月別報告数は上半期が多かったが、例年に比較して5月から7月の3か月の増加が著明であった。年齢別では20歳から30歳代の若年層に多かったが、20歳未満でも相当数が報告され、また70歳以上の高齢層でも散見されている。

(三馬 省二 記)

21.性器ヘルペスウイルス感染症

図 21-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

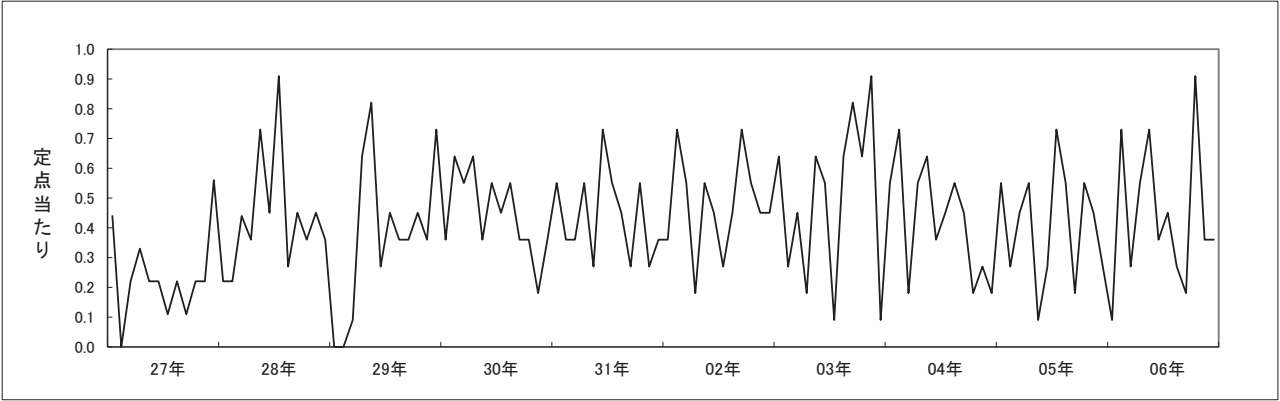


図 21-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

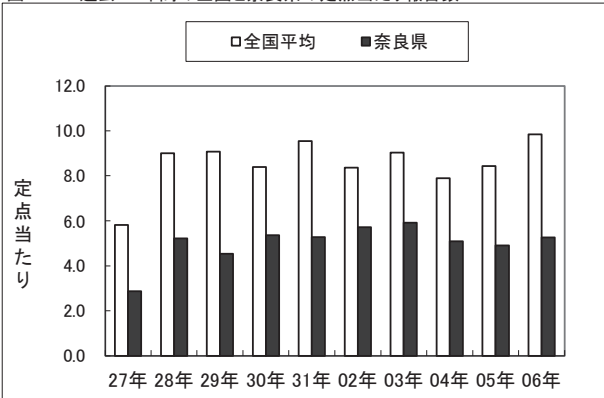


図 21-5 年齢別報告数(実数)

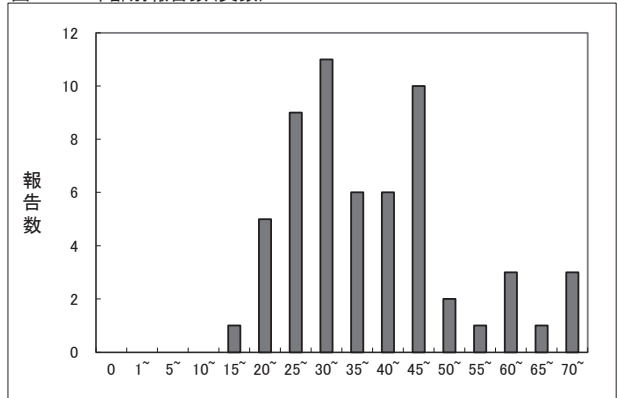
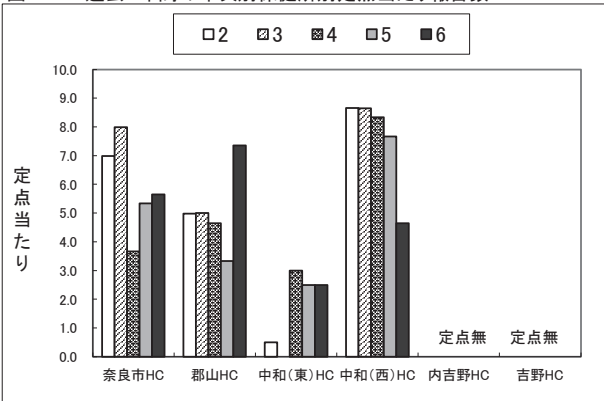


図 21-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



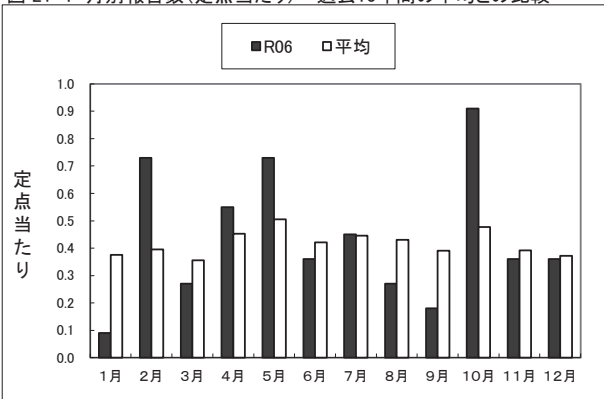
※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

コメント

性器ヘルペスウイルス感染症は、全国平均に比較して件数が低いが、ほぼ例年並みの報告数であった。保健所別では過去4年間は中和保健所が多かったが、令和6年は郡山保健所が最多で、次いで奈良市保健所であり、中和保健所の件数が減少した。月別では過去10年平均で比較して10月が群を抜いて増加している。年齢別では10歳代にも少数ながら観察されているが、20歳から50歳まで幅広く観察されている。さらに、50歳以上でも各年齢層で報告があるのも特徴である。

(三馬 省二 記)

図 21-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



22.尖圭コンジローマ

図 22-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

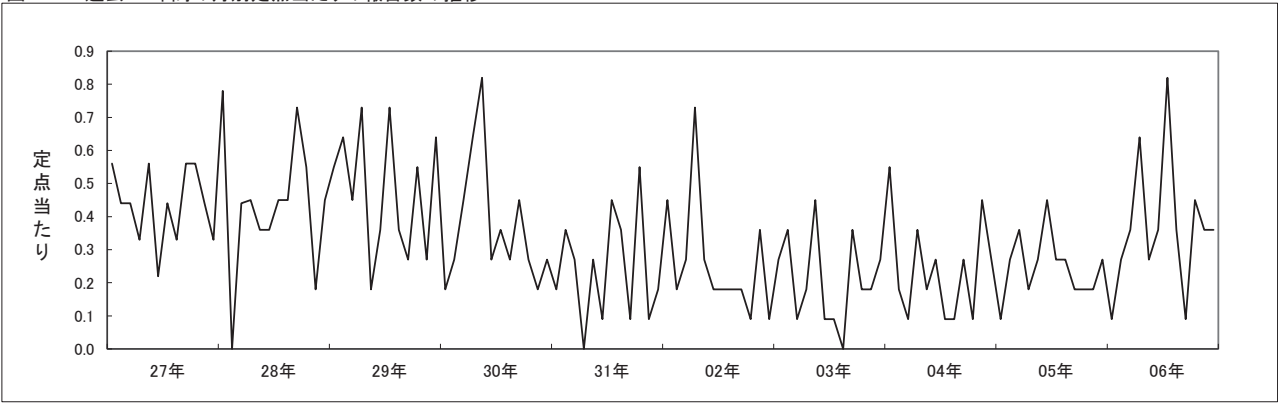


図 22-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

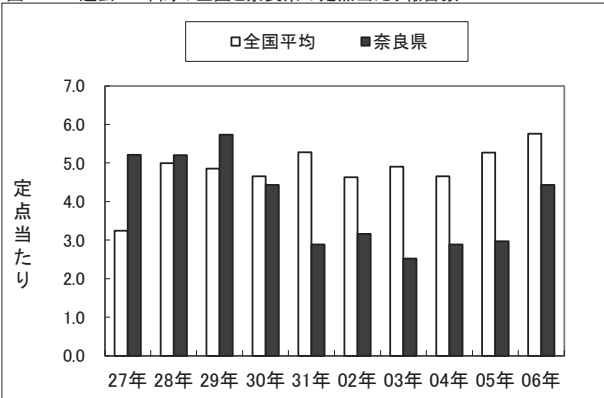


図 22-5 年齢別報告数(実数)

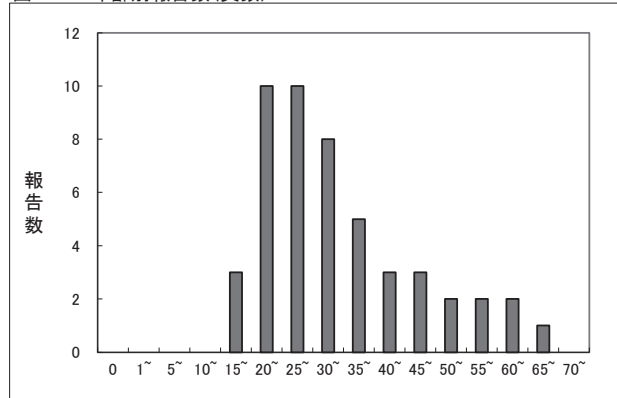
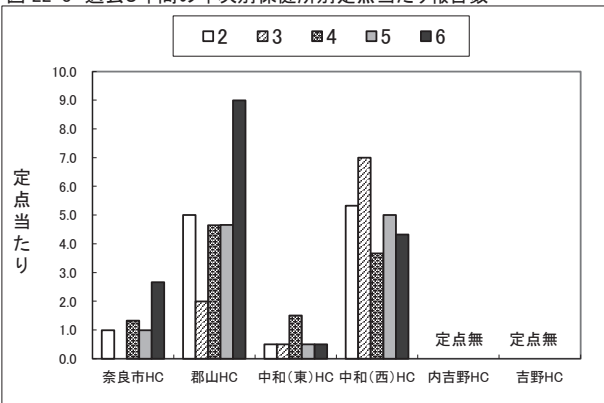


図 22-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



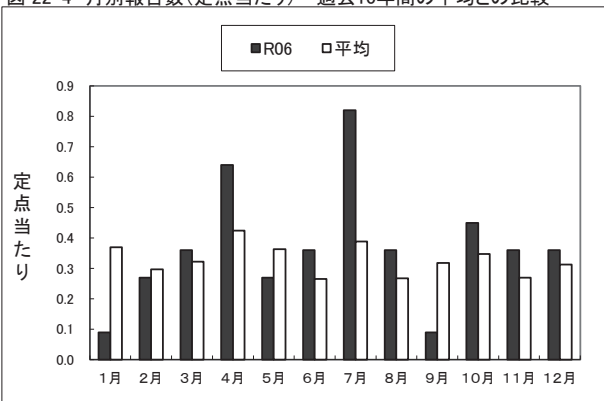
※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

コメント

尖圭コンジローマは、定点当たりの報告数が令和元年から全国平均を大きく下回っていたが、本年は増加傾向がみられる。保健所当たりの報告数は郡山保健所で急増、奈良市保健所でも増加した。月別では4月、7月の増加が顕著で、逆に1月、9月が少なかった。

(三馬 省二 記)

図 22-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



23.淋菌感染症

図 23-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

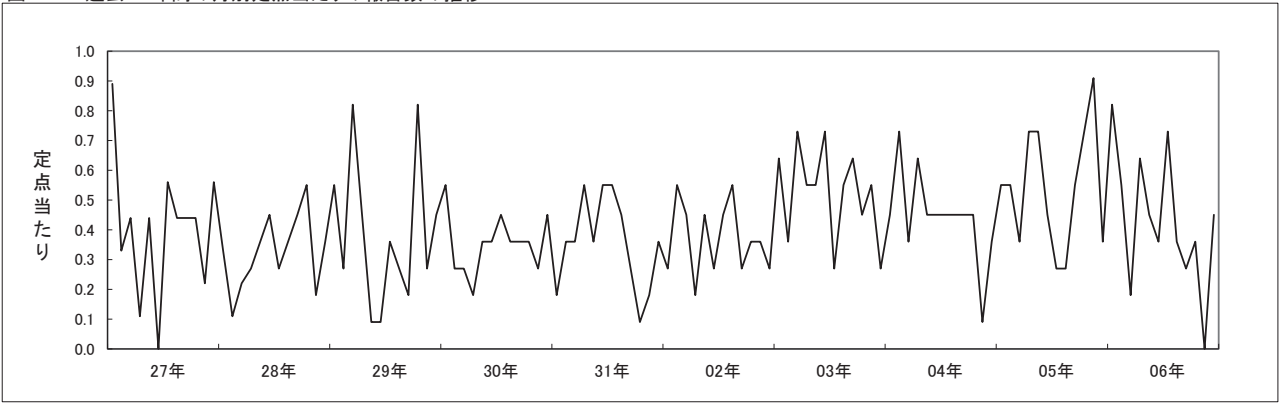


図 23-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

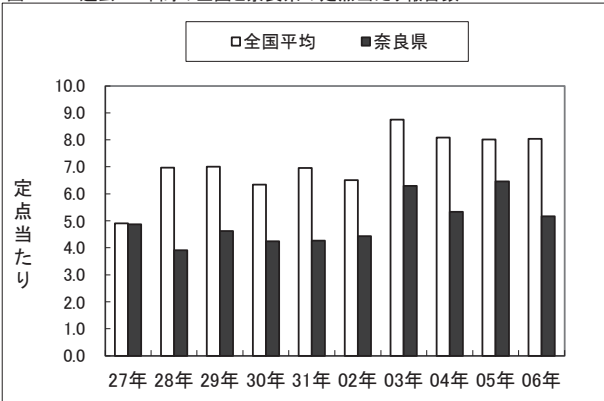


図 23-5 年齢別報告数(実数)

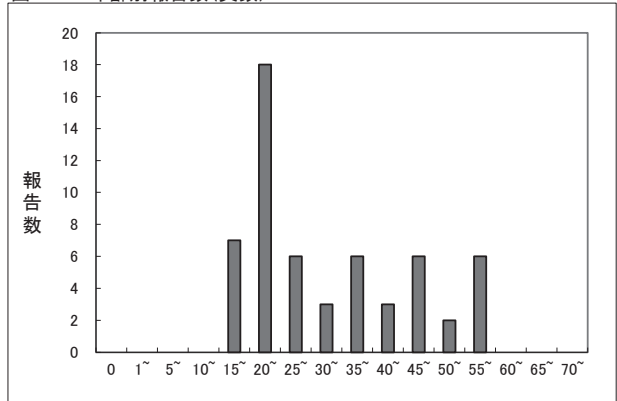
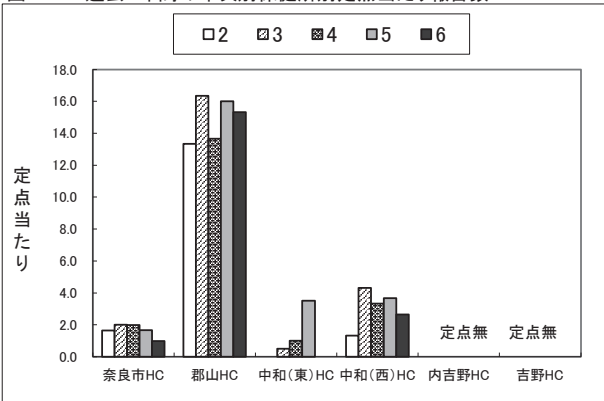
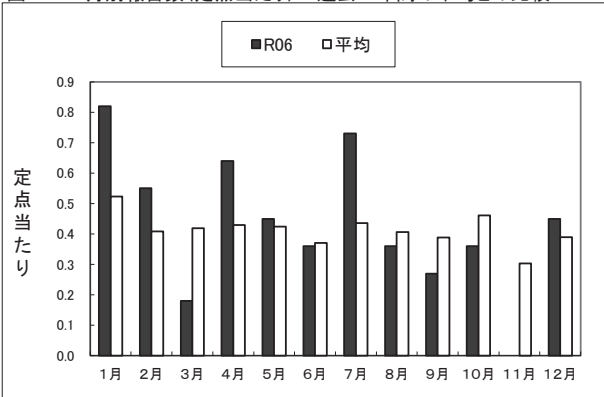


図 23-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 23-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

淋菌感染症は、本年も例年通り全国平均を下回った。保健所別では、例年通り郡山保健所管内の報告数が圧倒的に多かった。月別では、上半期が増加していた。年齢別では、15歳代から見られ、20-24歳が圧倒的に多く55歳まで平均的に認められた。

(三馬 省二 記)

基幹定点分(月報)

24.メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

図 24-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

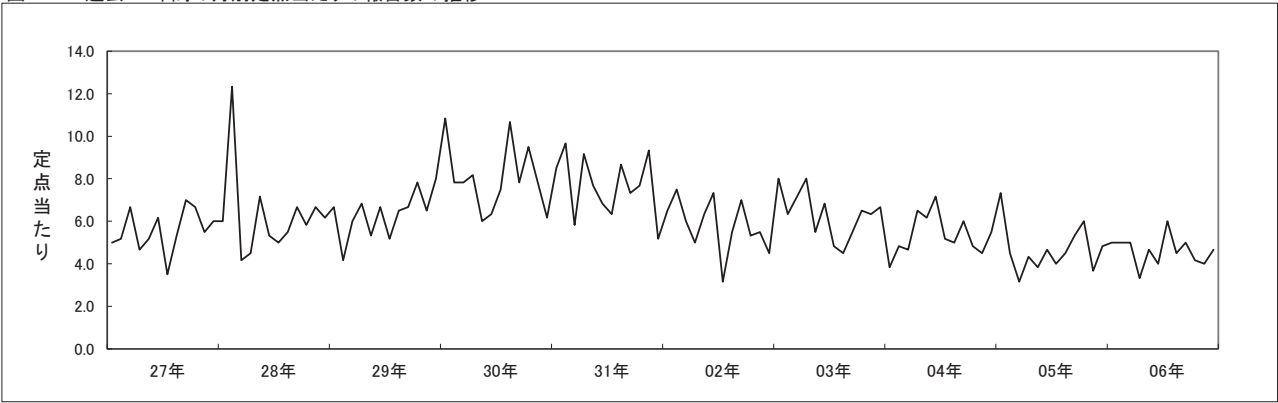


図 24-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

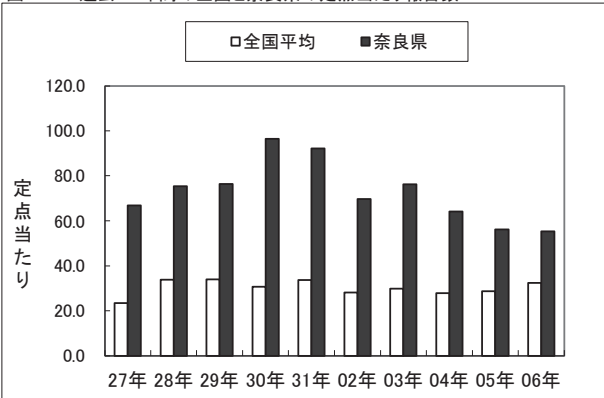


図 24-5 年齢別報告数(実数)

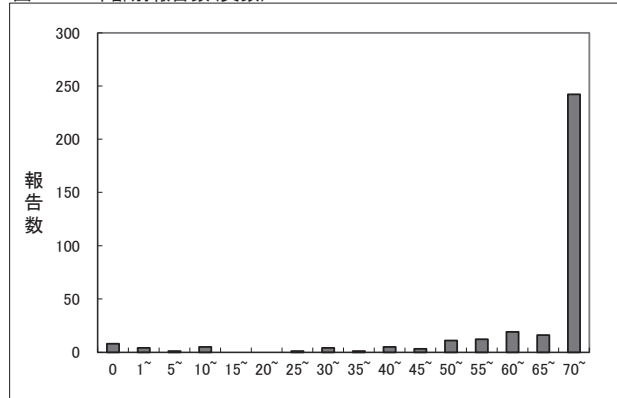
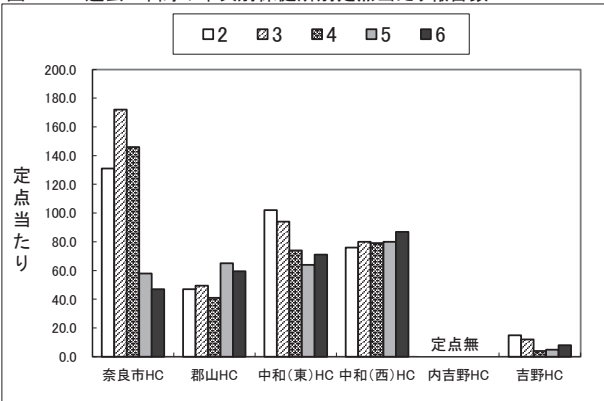
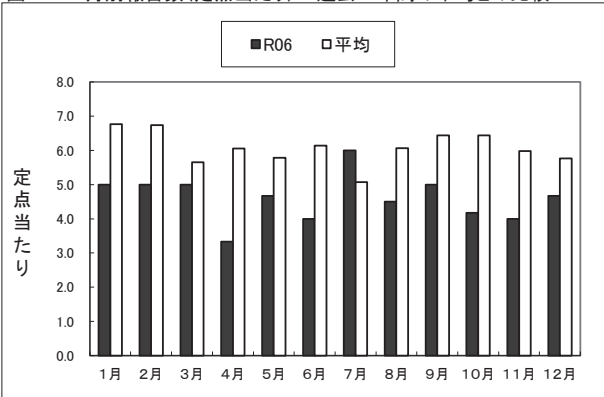


図 24-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 24-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年の奈良県におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症の報告数は332件、定点あたり55.34件であった。奈良県は例年MRSA感染症の報告数が多く、令和5年も平成28年以降8年連続で全国ワースト1位であったが、令和6年は全国2位と大きな変化はみられなかった。分離数に明確な季節性は認められず、70歳以上からの分離率が高い点は令和4年・5年と同様であった。近年、奈良県を含め全国的に市中感染型MRSA(CA-MRSA)の報告が増加している。CA-MRSAは従来の院内感染型MRSA(HA-MRSA)に比べて病原性が高く、伝播しやすい性質を持つ。本調査からはCA-MRSAとHA-MRSAを区別することはできないが、発生動向を注視する必要がある。奈良県においても家庭内感染症として難治性のCA-MRSA感染症が報告されており、地域社会での拡散に警戒が求められる。一方で、HA-MRSAについても引き続き重要であり、院内での拡散防止には医療機関における医療関連感染対策の一層の徹底が不可欠である。

(矢野 寿一 記)

25.ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

図 25-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

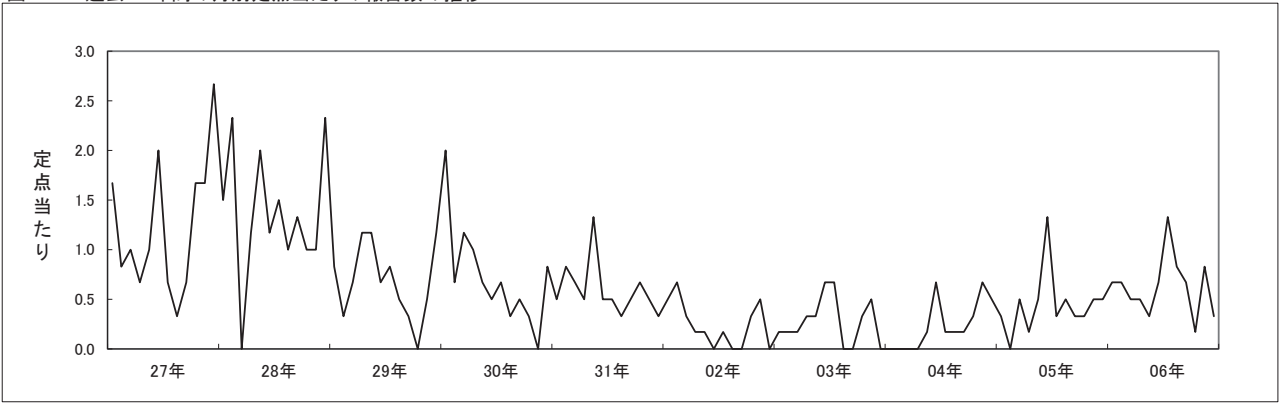


図 25-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

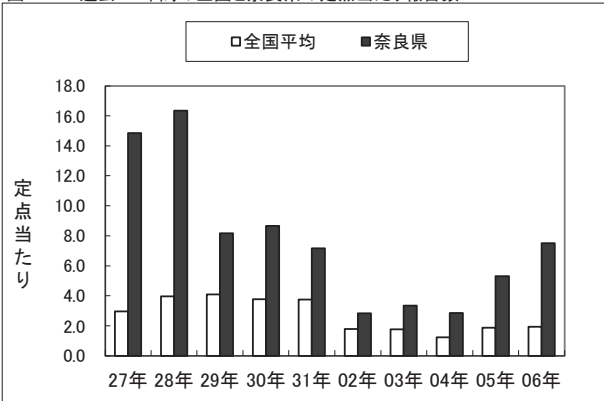


図 25-5 年齢別報告数(実数)

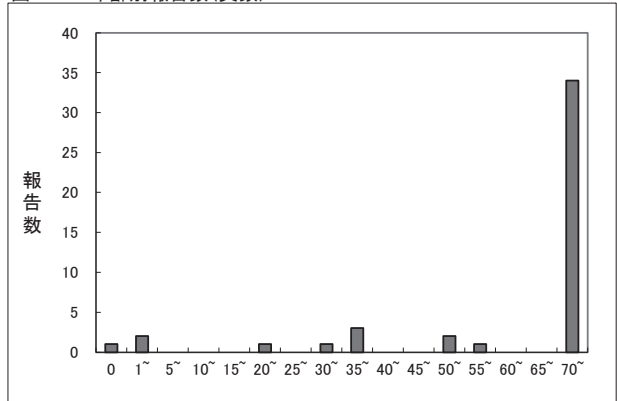
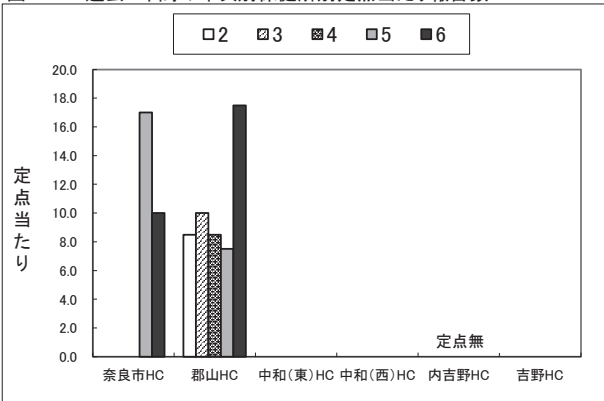
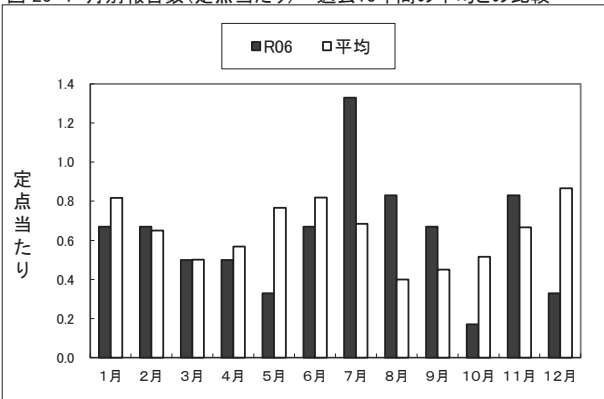


図 25-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 25-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年の奈良県におけるペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告数は45件、定点あたり7.50件であった。令和2～4年は奈良県を含め全国的に報告数が少ない傾向にあったが、令和5年以降は増加に転じ、その傾向は令和6年も継続している。肺炎球菌ワクチンは多くの血清型をカバーし、ワクチン接種がペニシリン耐性肺炎球菌の分離率を低下させたことが報告されている。しかし近年、ワクチンでカバーされていない血清型のペニシリン耐性肺炎球菌が増加傾向にあることが指摘されており、本調査でみられた増加もその現象を反映している可能性がある。今後も動向を注視する必要がある。

(矢野 寿一 記)

26.薬剤耐性緑膿菌感染症

図 26-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

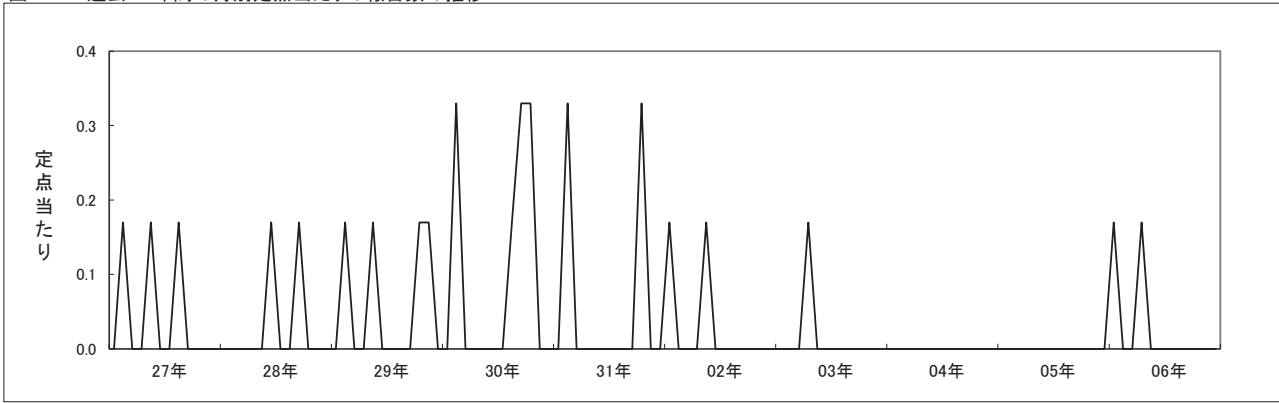


図 26-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

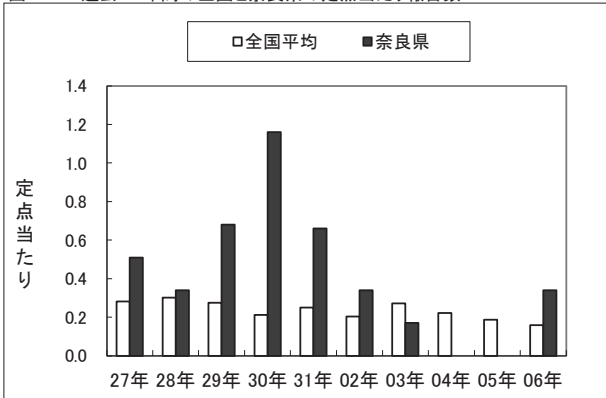


図 26-5 年齢別報告数(実数)

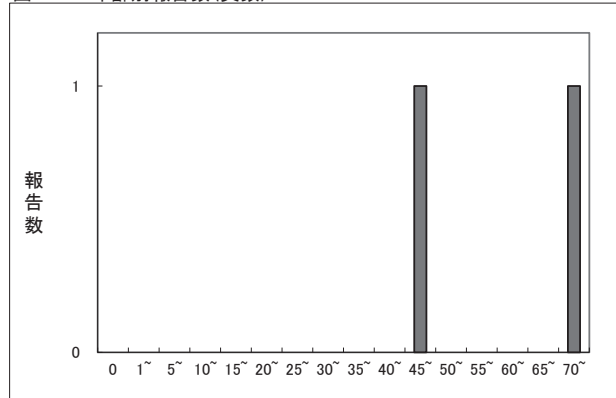
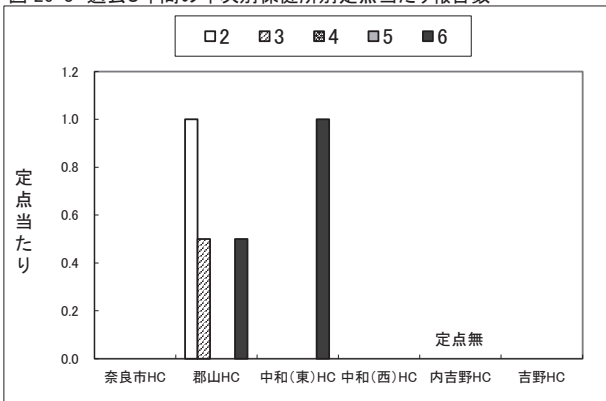
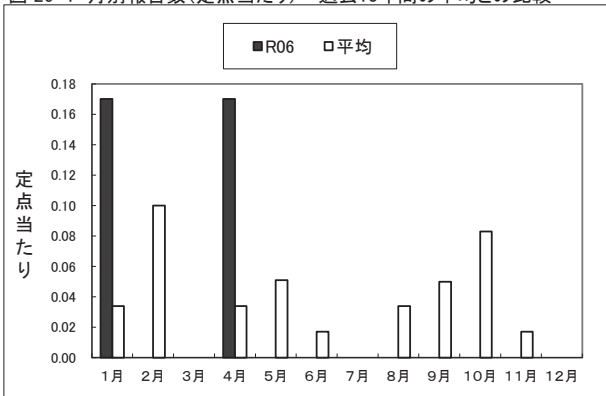


図 26-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



※内吉野保健所は吉野保健所と統合され、令和3年51週報告分より旧内吉野保健所分は吉野保健所として集計しています。

図 26-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和6年の奈良県における薬剤耐性緑膿菌の報告数は2件、定点あたり0.34件であった。令和3～5年にかけて奈良県での報告は極めて少なく、令和4年および5年は0件であった。しかし令和6年は2件が報告され、件数としては依然少ないものの、その影響で全国順位は7位に上昇した。薬剤耐性緑膿菌の減少には、感染対策の徹底と抗菌薬の適正使用(特にカルバペネム系薬の適正投与)が重要であり、今後も各医療機関における適切な対応が期待される。

(矢野 寿一 記)

表1 疾患別・月別報告数

報告実数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	3,834	5,552	1,943	332	76	32	114	105	71	232	351	7,605	20,247
新型コロナウイルス感染症	2,004	2,545	1,611	972	808	833	3,222	2,867	940	480	322	740	17,344
RSウイルス感染症	5	13	268	629	439	138	124	125	61	46	43	110	2,001
咽頭結膜熱	165	114	98	87	93	95	57	43	21	46	39	56	914
A群溶連菌咽頭炎	330	369	401	379	587	492	312	188	181	216	205	145	3,805
感染性胃腸炎	848	955	883	614	795	681	437	426	369	545	502	642	7,697
水痘	12	25	8	2	15	12	20	24	23	23	23	15	202
手足口病	41	50	68	125	695	1,241	1,377	1,071	762	977	341	116	6,864
伝染性紅斑	0	0	0	0	0	2	0	1	9	22	19	49	102
突発性発しん	26	28	31	34	51	55	41	51	29	44	32	27	449
ヘルパンギーナ	8	1	2	12	31	75	93	71	28	11	3	1	336
流行性耳下腺炎	1	3	1	2	9	2	4	1	3	1	3	2	32
計	1,436	1,558	1,760	1,884	2,715	2,793	2,465	2,001	1,486	1,931	1,210	1,163	22,402
急性出血性結膜炎	1	0	0	1	0	0	0	2	1	0	2	0	7
流行性角結膜炎	25	19	32	23	39	36	20	22	12	22	11	13	274
計	26	19	32	24	39	36	20	24	13	22	13	13	281
細菌性髄膜炎	1	0	2	0	0	1	1	1	1	3	0	0	10
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	1	0	7	2	2	3	15
マイコプラズマ肺炎	1	0	4	0	4	2	13	31	35	100	93	59	342
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計	2	0	6	0	5	3	15	32	43	105	95	62	368
性器クラミジア感染症	23	17	15	19	25	27	25	14	15	16	20	9	225
性器ヘルペスウイルス感染症	1	8	3	6	8	4	5	3	2	10	4	4	58
尖圭コンジローマ	1	3	4	7	3	4	9	4	1	5	4	4	49
淋菌感染症	9	6	2	7	5	4	8	4	3	4	0	5	57
計	34	34	24	39	41	39	47	25	21	35	28	22	389
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	30	30	30	20	28	24	36	27	30	25	24	28	332
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	4	3	3	2	4	8	5	4	1	5	2	45
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	35	34	33	24	30	28	44	32	34	26	29	30	379

定点当たり報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	69.71	101.63	35.80	6.04	1.39	0.58	2.07	1.92	1.29	4.22	6.45	140.99	372.09
新型コロナウイルス感染症	36.44	46.61	29.65	17.67	14.72	15.15	58.58	52.83	17.09	8.73	5.91	13.75	317.12
RSウイルス感染症	0.15	0.38	7.96	18.50	13.01	4.06	3.65	3.78	1.79	1.35	1.27	3.36	59.26
咽頭結膜熱	4.85	3.39	2.94	2.56	2.75	2.79	1.68	1.29	0.62	1.35	1.17	1.71	27.11
A群溶連菌咽頭炎	9.71	10.98	12.03	11.15	17.31	14.47	9.18	5.62	5.32	6.35	6.11	4.43	112.66
感染性胃腸炎	24.94	28.43	26.48	18.06	23.47	20.03	12.85	12.76	10.85	16.03	15.01	19.59	228.51
水痘	0.35	0.75	0.24	0.06	0.44	0.35	0.59	0.72	0.68	0.68	0.69	0.46	6.00
手足口病	1.21	1.50	2.05	3.68	20.48	36.50	40.50	31.94	22.41	28.74	10.13	3.55	202.69
伝染性紅斑	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.03	0.26	0.65	0.57	1.50	3.07
突発性発しん	0.76	0.84	0.93	1.00	1.50	1.62	1.21	1.54	0.85	1.29	0.95	0.82	13.32
ヘルパンギーナ	0.24	0.03	0.06	0.35	0.91	2.21	2.74	2.14	0.82	0.32	0.09	0.03	9.93
流行性耳下腺炎	0.03	0.09	0.03	0.06	0.27	0.06	0.12	0.03	0.09	0.03	0.09	0.06	0.95
計	42.24	46.39	52.72	55.41	80.15	82.15	72.50	59.85	43.71	56.79	36.08	35.52	663.50
急性出血性結膜炎	0.10	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.21	0.10	0.00	0.20	0.00	0.71
流行性角結膜炎	2.50	1.90	3.20	2.30	3.92	3.60	2.00	2.30	1.20	2.20	1.10	1.30	27.52
計	2.60	1.90	3.20	2.40	3.92	3.60	2.00	2.51	1.30	2.20	1.30	1.30	28.23
細菌性髄膜炎	0.17	0.00	0.33	0.00	0.00	0.17	0.17	0.17	0.17	0.50	0.00	0.00	1.67
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	1.17	0.33	0.33	0.50	2.50
マイコプラズマ肺炎	0.17	0.00	0.67	0.00	0.67	0.33	2.17	5.17	5.83	16.67	15.50	9.83	57.00
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17
計	0.33	0.00	1.00	0.00	0.83	0.50	2.50	5.33	7.17	17.50	15.83	10.33	61.33
性器クラミジア感染症	2.09	1.55	1.36	1.73	2.27	2.45	2.27	1.27	1.36	1.45	1.82	0.82	20.45
性器ヘルペスウイルス感染症	0.09	0.73	0.27	0.55	0.73	0.36	0.45	0.27	0.18	0.91	0.36	0.36	5.27
尖圭コンジローマ	0.09	0.27	0.36	0.64	0.27	0.36	0.82	0.36	0.09	0.45	0.36	0.36	4.45
淋菌感染症	0.82	0.55	0.18	0.64	0.45	0.36	0.73	0.36	0.27	0.36	0.00	0.45	5.18
計	3.09	3.09	2.18	3.55	3.73	3.55	4.27	2.27	1.91	3.18	2.55	2.00	35.36
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5.00	5.00	5.00	3.33	4.67	4.00	6.00	4.50	5.00	4.17	4.00	4.67	55.33
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.67	0.67	0.50	0.50	0.33	0.67	1.33	0.83	0.67	0.17	0.83	0.33	7.50
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.17	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33
計	5.83	5.67	5.50	4.00	5.00	4.67	7.33	5.33	5.67	4.33	4.83	5.00	63.17

表2-1 疾患別・年齢別報告数

年齢	0-6M	7-12M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	
インフルエンザ	72	187	591	695	845	990	1,172	1,240	1,180	1,251	1,295	4,137	1,388	1,020	1,083	1,132	934	539	295	201	20,247	
新型コロナウイルス感染症	142	278	470	258	208	241	243	217	212	231	239	1,329	1,002	1,571	1,645	1,912	2,127	1,689	1,782	1,548	17,344	
RSウイルス感染症	170	299	646	429	231	130	64	8	6	4	4	7	0	3							2,001	
咽頭結膜熱	3	65	235	141	111	116	82	45	31	17	11	27	8	22								914
A群溶連菌咽頭炎	2	27	114	251	365	504	510	477	379	331	260	498	31	56								3,805
感染性胃腸炎	81	379	1,139	921	721	779	666	548	398	370	266	520	151	758								7,697
水痘	1	10	14	11	2	6	16	21	27	21	19	39	6	9								202
手足口病	54	452	1,789	1,265	902	906	681	307	176	102	75	114	11	30								6,864
伝染性紅斑	0	0	7	6	11	14	15	17	14	9	5	3	1	0								102
突発性発しん	2	92	253	67	19	10	4	2	0	0	0	0	0	0								449
ヘルパンギーナ	1	24	79	65	44	41	32	22	11	4	4	7	1	1								336
流行性耳下腺炎	0	0	2	1	4	3	4	2	4	6	1	5	0	0								32
計	314	1,348	4,278	3,157	2,410	2,509	2,074	1,449	1,046	864	645	1,220	209	879	0	0	0	0	0	0	0	22,402
急性出血性結膜炎	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	1	0	1			7
流行性角結膜炎	2	0	6	10	16	16	7	9	1	6	6	9	8	32	56	32	23	24	11			274
計	2	0	6	10	16	16	7	9	1	6	6	9	8	33	59	32	24	24	12			281

年齢	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-	合計
細菌性髄膜炎	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	4	10
無菌性髄膜炎	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	0	0	7	15
マイコプラズマ肺炎	10	52	135	117	9	5	4	2	1	2	2	0	1	0	0	2	342
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
計	14	53	135	117	9	5	4	2	2	2	3	4	3	1	0	14	368
性器クラミジア感染症	0	0	0	0	19	71	43	32	22	11	14	5	5	1	0	2	225
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	0	1	5	9	11	6	6	10	2	1	3	1	3	58
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	3	10	10	8	5	3	3	2	2	2	1	0	49
淋菌感染症	0	0	0	0	7	18	6	3	6	3	6	2	6	0	0	0	57
計	0	0	0	0	30	104	68	54	39	23	33	11	14	6	2	5	389
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	8	4	1	5	0	0	1	4	1	5	3	11	12	19	16	242	332
ベニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	2	0	0	0	1	0	1	3	0	0	2	1	0	0	34	45
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
計	9	6	1	5	0	1	1	5	4	5	4	13	13	19	16	277	379

年齢別報告数(実数:10歳以上は1歳平均)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳~	15歳~	20歳~	30歳~	40歳~	50歳~	60歳~	70歳~	80歳~
インフルエンザ	259.0	591.0	695.0	845.0	990.0	1,172.0	1,240.0	1,180.0	1,251.0	1,295.0	827.4	277.6	102.0	108.3	113.2	93.4	53.9	29.5	20.1
新型コロナウイルス感染症	420.0	470.0	258.0	208.0	241.0	243.0	217.0	212.0	231.0	239.0	265.8	200.4	157.1	164.5	191.2	212.7	168.9	178.2	154.8
RSウイルス感染症	469.0	646.0	429.0	231.0	130.0	64.0	8.0	6.0	4.0	4.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
咽頭結膜熱	68.0	235.0	141.0	111.0	116.0	82.0	45.0	31.0	17.0	11.0	5.4	1.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A群溶連菌咽頭炎	29.0	114.0	251.0	365.0	504.0	510.0	477.0	379.0	331.0	260.0	99.6	6.2	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
感染性胃腸炎	460.0	1,139.0	921.0	721.0	779.0	666.0	548.0	398.0	370.0	266.0	104.0	30.2	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水痘	11.0	14.0	11.0	2.0	6.0	16.0	21.0	27.0	21.0	19.0	7.8	1.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手足口病	506.0	1,789.0	1,265.0	902.0	906.0	681.0	307.0	176.0	102.0	75.0	22.8	2.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
伝染性紅斑	0.0	7.0	6.0	11.0	14.0	15.0	17.0	14.0	9.0	5.0	0.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
突発性発しん	94.0	253.0	67.0	19.0	10.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヘルパンギーナ	25.0	79.0	65.0	44.0	41.0	32.0	22.0	11.0	4.0	4.0	1.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
流行性耳下腺炎	0.0	2.0	1.0	4.0	3.0	4.0	2.0	4.0	6.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	1,662.0	4,278.0	3,157.0	2,410.0	2,509.0	2,074.0	1,449.0	1,046.0	864.0	645.0	244.0	41.8	12.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳~	15歳~	20歳~	30歳~	40歳~	50歳~	60歳~	70歳~	80歳~
急性出血性結膜炎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.3	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
流行性角結膜炎	2.0	6.0	10.0	16.0	16.0	7.0	9.0	1.0	6.0	6.0	1.8	1.6	3.2	5.6	3.2	2.3	2.4	1.1	0.0
計	2.0	6.0	10.0	16.0	16.0	7.0	9.0	1.0	6.0	6.0	1.8	1.8	3.3	5.9	3.2	2.4	2.4	1.2	0.0

表2-2 疾患別・世代別報告数

疾患別・世代別 1歳平均 換算表

世代	乳前期	幼児期	学童期	思春期	成人期	高齢期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20~59歳	60歳~
インフルエンザ	259.0	858.6	1,011.4	277.6	104.2	34.5
新型コロナウイルス感染症	420.0	284.0	247.6	200.4	181.4	167.3
RSウイルス感染症	469.0	300.0	3.2	0.0	0.0	0.0
咽頭結膜熱	68.0	137.0	14.6	1.6	0.3	0.0
A群溶連菌咽頭炎	29.0	348.8	216.1	6.2	0.8	0.0
感染性胃腸炎	460.0	845.2	233.6	30.2	10.8	0.0
水痘	11.0	9.8	14.1	1.2	0.1	0.0
手足口病	506.0	1,108.6	86.0	2.2	0.4	0.0
伝染性紅斑	0.0	10.6	5.3	0.2	0.0	0.0
突発性発しん	94.0	70.6	0.2	0.0	0.0	0.0
ヘルパンギーナ	25.0	52.2	5.3	0.2	0.0	0.0
流行性耳下腺炎	0.0	2.8	2.0	0.0	0.0	0.0
計	1,662.0	2,885.6	580.4	41.8	12.6	0.0

小児科定点の疾患別・世代別割合

世代	乳前期	幼児期	学童期	思春期	成人期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20歳~
RSウイルス感染症	28.2%	10.4%	0.6%	0.0%	0.3%
咽頭結膜熱	4.1%	4.7%	2.5%	3.8%	2.5%
A群溶連菌咽頭炎	1.7%	12.1%	37.2%	14.8%	6.4%
感染性胃腸炎	27.7%	29.3%	40.2%	72.2%	86.2%
水痘	0.7%	0.3%	2.4%	2.9%	1.0%
手足口病	30.4%	38.4%	14.8%	5.3%	3.4%
伝染性紅斑	0.0%	0.4%	0.9%	0.5%	0.0%
突発性発しん	5.7%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
ヘルパンギーナ	1.5%	1.8%	0.9%	0.5%	0.1%
流行性耳下腺炎	0.0%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表3 疾患別・保健所別報告数

報告実数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	4,735	4,061	4,189	5,801	1,461	8,796	9,990	1,461	20,247
新型コロナウイルス感染症	2,932	4,152	3,456	4,669	2,135	7,084	8,125	2,135	17,344
RSウイルス感染症	324	282	516	817	62	606	1,333	62	2,001
咽頭結膜熱	226	133	152	295	108	359	447	108	914
A群溶連菌咽頭炎	695	623	606	1,684	197	1,318	2,290	197	3,805
感染性胃腸炎	1,538	1,971	1,316	2,292	580	3,509	3,608	580	7,697
水痘	55	73	26	36	12	128	62	12	202
手足口病	1,391	1,666	1,527	1,987	293	3,057	3,514	293	6,864
伝染性紅斑	12	66	5	18	1	78	23	1	102
突発性発しん	97	90	111	137	14	187	248	14	449
ヘルパンギーナ	64	108	31	100	33	172	131	33	336
流行性耳下腺炎	6	11	5	2	8	17	7	8	32
計	4,408	5,023	4,295	7,368	1,308	9,431	11,663	1,308	22,402
急性出血性結膜炎	2	5	0	0	0	7	0	0	7
流行性角結膜炎	120	24	115	15	0	144	130	0	274
計	122	29	115	15	0	151	130	0	281
細菌性髄膜炎	0	5	5	0	0	5	5	0	10
無菌性髄膜炎	0	12	2	0	1	12	2	1	15
マイコプラズマ肺炎	51	52	6	170	63	103	176	63	342
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	1	0	0	0	1	0	0	1
計	51	70	13	170	64	121	183	64	368
性器クラミジア感染症	44	98	8	75	0	142	83	0	225
性器ヘルペスウイルス感染症	17	22	5	14	0	39	19	0	58
尖圭コンジローマ	8	27	1	13	0	35	14	0	49
淋菌感染症	3	46	0	8	0	49	8	0	57
計	72	193	14	110	0	265	124	0	389
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	47	119	71	87	8	166	158	8	332
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	35	0	0	0	45	0	0	45
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	1	1	0	0	1	1	0	2
計	57	155	72	87	8	212	159	8	379

定点当たり報告数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	339.91	292.76	396.44	580.14	243.50	316.48	484.94	243.50	372.09
新型コロナウイルス感染症	211.39	298.26	315.70	467.08	355.83	255.45	387.87	355.83	317.12
RSウイルス感染症	36.59	31.36	75.10	136.17	20.67	33.90	103.47	20.67	59.26
咽頭結膜熱	25.31	14.90	21.95	49.17	36.00	20.11	34.68	36.00	27.11
A群溶連菌咽頭炎	77.69	69.71	87.55	280.67	65.67	73.76	177.27	65.67	112.66
感染性胃腸炎	172.87	221.13	190.93	382.00	193.33	196.90	280.52	193.33	228.51
水痘	6.15	8.17	3.90	6.00	4.00	7.16	4.85	4.00	6.00
手足口病	155.04	185.54	219.26	331.17	97.67	170.52	270.94	97.67	202.69
伝染性紅斑	1.33	7.33	0.74	3.00	0.33	4.37	1.83	0.33	3.07
突発性発しん	10.94	10.08	16.07	22.83	4.67	10.48	19.28	4.67	13.32
ヘルパンギーナ	7.11	12.01	4.43	16.67	11.00	9.69	10.08	11.00	9.93
流行性耳下腺炎	0.67	1.24	0.71	0.33	2.67	0.95	0.54	2.67	0.95
計	493.69	561.47	620.64	1,228.00	436.00	527.84	903.46	436.00	663.50
急性出血性結膜炎	0.83	1.67	0.00	0.00	0.00	1.20	0.00	0.00	0.71
流行性角結膜炎	41.33	8.00	57.50	7.50	0.00	24.33	32.50	0.00	27.52
計	42.17	9.67	57.50	7.50	0.00	25.53	32.50	0.00	28.23
細菌性髄膜炎	0.00	2.50	5.00	0.00	0.00	1.67	2.50	0.00	1.67
無菌性髄膜炎	0.00	6.00	2.00	0.00	1.00	4.00	1.00	1.00	2.50
マイコプラズマ肺炎	51.00	26.00	6.00	170.00	63.00	34.33	88.00	63.00	57.00
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.17
計	51.00	35.00	13.00	170.00	64.00	40.33	91.50	64.00	61.33
性器クラミジア感染症	14.67	32.67	4.00	25.00	0.00	23.67	16.60	0.00	20.45
性器ヘルペスウイルス感染症	5.67	7.33	2.50	4.67	0.00	6.50	3.80	0.00	5.27
尖圭コンジローマ	2.67	9.00	0.50	4.33	0.00	5.83	2.80	0.00	4.45
淋菌感染症	1.00	15.33	0.00	2.67	0.00	8.17	1.60	0.00	5.18
計	24.00	64.33	7.00	36.67	0.00	44.17	24.80	0.00	35.36
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	47.00	59.50	71.00	87.00	8.00	55.33	79.00	8.00	55.33
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10.00	17.50	0.00	0.00	0.00	15.00	0.00	0.00	7.50
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.50	1.00	0.00	0.00	0.33	0.50	0.00	0.33
計	57.00	77.50	72.00	87.00	8.00	70.67	79.50	8.00	63.17